

平成 29 年度

佐賀大学
学生募集要項

—推薦入試—

佐賀大学

目次

I	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	1
II	推薦入試Ⅰ〈大学入試センター試験を課さない〉	
1	実施する学部、学科等、募集人員及び対象となる高等学校の科	14
2	出願資格	15
3	推薦人数	16
4	出願方法及び出願期間	16
5	出願に必要な書類等	17
6	入試方法	20
III	推薦入試Ⅱ〈大学入試センター試験を課す〉	
1	実施する学部、学科、募集人員及び対象となる高等学校の科	26
2	出願資格	27
3	推薦人数	30
4	出願方法及び出願期間	30
5	出願に必要な書類等	31
6	入試方法	33
IV	共通事項	
1	入室又は集合時間	36
2	試験日時、試験内容及び試験場	36
3	障がい等を有する志願者との事前相談について	37
4	合格者の発表	37
5	入学手続	38
6	授業料について	39
7	佐賀大学の一般入試を志願する場合	39
8	受験にあたっての主な注意事項	40
9	理工学部への推薦に際しての留意点	40
10	佐賀大学生協からのお知らせ	41
11	入学志願票等の記入上の注意及び記入例	43
12	請求により本人に開示される個人情報	46
13	個人情報の取扱いについて	46
14	入学後のコース・分野及び配属時期	47
15	過去3ヶ年の志願者等状況	48
16	佐賀大学予約型奨学金（かささぎ奨学金）について	49
●推薦書（各学部）		
●佐賀県枠・長崎県枠志願理由書・確約書（医学部）		
V	佐賀大学配置図及び佐賀大学への交通案内	52
VI	添付書類	
●検定料振込依頼書		●志望理由書
●検定料振込証明台紙		●住所届
●入学志願票・写真票・受験票（推薦入試Ⅰ）…（様式推Ⅰ）		●志願票等在中封筒
●〃（推薦入試Ⅱ）…（様式推Ⅱ）		●受験票送付用封筒
●自己推薦書（医学部）		●写真用シール

試験実施日程等

推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）

学部（学科）	教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 理工学部 農学部	医学部（看護学科）
願書受付期間	平成28年11月1日(火)～11月8日(火)	
試験日	平成28年12月2日(金)	平成28年12月3日(土)
合格者発表日	平成28年12月12日(月)	
入学手続期間	平成29年1月16日(月)～1月19日(木)	

推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

学部（学科）	医学部（医学科）	理工学部
願書受付期間	平成28年11月1日(火) ～11月8日(火)	平成29年1月16日(月) ～1月23日(月)
試験日	平成28年12月3日(土)	小論文や面接等の 試験は行いません。
合格者発表日	平成29年2月8日(水)	
入学手続期間	平成29年2月13日(月)～2月15日(水)	

I 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めていきます。

教育学部

求める学生像

教育学部では、子どもの心身の発達や学びを支える教育の充実、確かな学力の形成、小学校段階での英語教育の充実、科学的思考力の育成、ICTを利活用した教育の充実など、複雑で多様な地域の数多くの教育課題に対応できる高度な指導力を身につけた教員の養成を目指します。各コースの目的と求める学生像は以下の通りです。

幼小連携教育コース

現在の家庭・学校・地域が抱える教育的課題を解決するための教育学や心理学、幼児教育、特別支援教育の専門的知識を身につけ、幼児期から児童期にかけての子どもたちの心身の発達や学びを支えるための教育能力をもった教員を養成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

① 小学校の全教科に関する学習と、心理学・教育学・幼児教育の学習や特別支援教育の学習に意欲を持って取り組める人
② 幅広い基礎的学力や技能を備え、家庭・学校・地域が抱える教育的課題や子どもたちの心身の発達、学びを支える教育について関心を持ち、幼稚園、認定こども園、小学校、または特別支援学校の教員を目指す人
〔幼小連携教育コースで学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かりやすく文章や口頭で表現が必要です。将来、教師として活躍するためには、教職についての意欲と関心を培い、幼児教育や初等教育、特別支援教育をめぐる諸問題に対して強い関心を持つことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、将来教師になるにあたって糧となるような何らかの実践を経験できる機会があれば積極的に挑戦することを期待します。

小中連携教育コース

小学校から中学校までの9年間を一体としてとらえて、児童生徒の学習意欲を高め、学力を向上させていくための指導法や教材について学び、充実した教育実習を各学年で行うことにより、高度な教育実践力をもった教員を養成します。そのため、以下に示すような学生を求めています。

① 小学校の全教科に関する学習と、中学校のいざれかの教科の学習に意欲を持って取り組める人
② 幅広い基礎的学力や技能を備え、小学校から中学校への教育の接続の問題や各教科の教育について関心を持ち、小学校、中学校、小中一貫校の教員を目指す人
〔小中連携教育コースで学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

文系、理系に偏らず、高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かりやすく文章や口頭で表現でき

ることが必要です。なお、技能が重要視される教科については、基礎的な技量をあわせて修得しておくことが求められます。将来、小学校や中学校などの教師として活躍するためには、初等教育や中等教育をめぐる諸問題に対して幅広い視野と強い関心を持ち、読書などを通して自分自身で考えておくことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、教育に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

入学者選抜の基本方針

教育学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学者を選考します。

【前期日程】大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、個別学力検査においては、専門科目を理解するために必要な基礎学力または適性を有しているかを、英語および国語または数学(いざれか1教科)によって評価します。

【後期日程】大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、個別学力検査においては、専門科目を理解するために必要な基礎学力または適性を有しているかを、英語および小論文によって評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」、「推薦入試Ⅰ(佐賀県枠)」および「AO入試」の3つの入試区分により、入学者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書、小論文、基礎学力試験によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力および適性を有しているかを、小論文によって評価します。さらに、明確な志望動機、特別支援学校や小・中学校等で特別支援教育の仕事に携わる教員を目指す強い意志、入学後の学習意欲等を有しているかを、書類審査と面接試験によって評価します。

【推薦入試Ⅰ(佐賀県枠)】出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書、小論文、基礎学力試験によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力および適性を有

ているかを、小論文によって評価します。さらに、明確な志望動機、佐賀県下の小学校教員を目指す強い意志、入学後の学習意欲等を有しているかを、書類審査と面接試験によって評価します。

【AO入試】出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書、小論文によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力および適性を有しているかを、活動実績報告書、小論文、面接試験、適性検査によって評価します。さらに、明確な志望動機、教職を目指す強い意志、入学後の学習意欲等を有しているかを書類審査と面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、日本留学試験、TOEFLの成績、日本語作文および面接試験によって、入学後の学習に必要な語学力について評価します。また、大学で学習するために必要な基礎学力（汎用的な能力、専門科目を理解できる基礎学力および適性を含む）を有しているかを、日本留学試験と書類審査（成績証明書等）によって評価します。さらに、教育学部に対する明確な志望動機や入学後の学習意欲等を有しているかを、面接試験によって評価します。

芸術地域デザイン学部

求める学生像

芸術地域デザイン学部は、創造性や高い技能をもち、新しい芸術表現を実現できる人材、また、地域が有する問題や状況に芸術を手段として柔軟に対応し、芸術を社会に紹介したり、芸術で社会を活性化したりできる人材の養成を目的とします。各コースの目的と求める学生像は以下の通りです。

芸術表現コース

現代の様々な問題に主体的かつ積極的に取り組み、芸術を自ら創造・表現し、美術・工芸や有田セラミックの専門的知識を身につけ、マネジメントとともに共同参画することで、地域創生に貢献する人材を養成します。そのため以下のような学生を求めています。

① 高等学校で習得すべき基礎的学力と芸術についての知識、また、自らの手による描写力、発想力など芸術表現に関わる基本的な能力を有する人
② 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力などを有する人
③ 地域社会が抱える問題に关心があり、芸術表現を通じて地域社会を機能的に繋げていける企画力、発想力、表現力等を有する人
④ 意欲的かつ継続的な芸術の研究や自主的な芸術の活動を目指す人
⑤ 将来、企業で美術に関わる仕事をする者、美術・工芸作家、造形・セラミック技術者、デザイナー、美術・工芸の販売や流通に関わる仕事、中学校・高等学校の美術教員、また、広くメディアに関わる仕事を志望する人
〔芸術表現コースで学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

芸術表現コースで学ぶにあたって大きく3つの事を意識してください。1つ目は「活力」です。芸術が果たしてきた役割を学びつつ、これから社会とどのようにつながることが出来るかを想像してください。主体的な自己が生まれ、同時に活力を生み出す事が出来ます。2つ目は「理知」です。身の回りの現実に起こる出来事に興味を持ち、気になる事に少し立ち止まりながら知識を深めてください。様々な分野の事が複雑に関係している世界の様々な兆候を見逃さない感性が育まれ、理知へと発展します。3つ目は「発信」です。自分の好きなものや気になることを誰かに積極的に伝えてください。それは活力と理知を伴って社会への発信へ変わります。これらの事を入学前から意識することで、より有意義な大学生活が送れるはずです。

地域デザインコース

地域資源をデザインの手法を使ってコンテンツ化し、地域創生に貢献できる人材、キュレーター（学芸員）やアートコーディネーターとして国内・海外の文化芸術振興に寄与できる人材、また、まちづくり、地域創生等のコーディネーターやリーダーとして地域社会に貢献できる人材を養成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

① 高等学校で習得すべき基礎的学力と発想力、また、地域社会が抱える問題についての基礎的な知識を有する人

② 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力などを有する人

③ 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる一定の語学力を有する人

④ 地域社会が抱える問題に关心があり、芸術を通じて地域社会を機能的に繋げていける企画力、発想力、表現力等を有する人

⑤ 主体的にものごとに取り組み、積極的に行動できる人

⑥ 意欲的かつ継続的に地域の文化芸術活動に参画する意欲のある人

⑦ 将来、キュレーター（学芸員）やアートコーディネーターとなることを、また、自治体・企業等で文化振興、文化財保存やまちづくり等に携わる仕事を志望する人
〔地域デザインコースで学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

本コースで問われるのは、芸術表現の技能・巧拙ではありません。地域デザインコースにおける4年間の教育課程を確実に修得するためには、高等学校で履修する教科・科目を広く学んでおくことが重要です。特に、国語、英語の基礎的な学力を有していることが求められます。これらの幅広い基礎的な学力をもとに、自分の考えを分かりやすく、文章や絵、図表などを多角的に組み合わせることで口頭で表現できる企画力、発想力、表現力が必要です。将来、国内・海外の文化芸術振興、あるいはまちづくり、地域創生等に貢献できる人材となるためには、地域社会にとどまらない幅広い視野と強い関心を持つことも重要です。読書などを通じて知識教養を深めるとともに、大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、地域や社会全般に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

入学者選抜の基本方針

芸術地域デザイン学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学者を選考します。

【前期日程】大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、個別学力検査においては、専門科目を理解するために必要な基礎学力、適性および技術を有しているかを、各コースが指定する評価方法（総合問題、実技検査）によって評価します。

【後期日程】大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、個別学力検査においては、専門科目を理解するために必要な基礎学力、適性および技能を有しているかを、各コースが指定する評価方法（学力検査、問題解決・提案力テスト、実技

検査)によって評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」と「AO入試」の2つの区分により、入学者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書、推薦書によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力、適性および技能を有しているかを、ポートフォリオ、実技検査によって評価します。さらに、明確な志望動機、入学後の学習意欲等を有しているかを、書類審査と面接試験によって評価します。

【AO入試】(芸術表現コース)出願要件を満たしていることを前提とします。

その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書と適性検査によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力および適性を有しているかを、ポートフォリオ、適性検査によって評価します。さらに、明確な志望動機、入学後の学習意欲等を

有しているかを書類審査と面接試験によって評価します。

【AO入試】(地域デザインコース)出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書、小論文および適性検査によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力および適性を有しているかを、小論文と適性検査によって評価します。さらに、明確な志望動機、入学後の学習意欲等を有しているかを書類審査(特色加点を含む)と面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために私費外国人留学生入試を行います。本入試では、日本留学試験、TOEFL、日本語作文(地域デザインコース)および面接試験によって、入学後の学習に必要な語学力について評価します。また、大学で学習するために必要な基礎学力(汎用的な能力および専門科目を理解できる基礎学力または適性を含む)を有しているかを、日本留学試験、書類審査(成績証明書等)、実技検査(芸術表現コース)によって評価します。さらに、各コースに対する明確な志望動機や入学後の学習意欲等を有しているかを、面接試験によって評価します。

経済学部

求める学生像

経済学部は、経済学・経営学・法律学を柱として社会科学上の知識と教養を授け、経済や社会における課題を分析し、解決できる人材を育成することを教育の目的とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

経済学科

経済学科は、経済の理論と政策を学び、現代の経済と社会の仕組みについて総合的に考え、幅広い視野と専門知識をもつ人材を育てることを教育の目的にしています。そのために、以下に示すような学生像を求めてています。

- ① 現代に生起している問題に関心をもち、経済と社会の仕組みを理解しようとする意欲を持つ人
- ② 様々な社会現象を理解するために必要な幅広い基礎学力を有している人
- ③ 社会の変化に対応するために、生涯に亘って学習を続けることの必要性を認識し、その基盤となる幅広い知識と学修能力を大学で得たいと考えている人

【経済学科で学ぶために必要な能力や適性及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み】

社会で生起している問題を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報をもとに自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に記述する国語力が求められます。また、経済学には、数学的な思考が必要な分野も含まれます。したがって、高等学校の教科書レベルの知識を習得していることが重要です。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目の基本的な知識と技能を習得しておくことが求められます。社会問題への関心と情報収集能力が必要です。

国際性が求められる時代においては、英語を中心とした外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際政治などの理解を深めるために必要です。また、経済や経営、法律に関連する社会現象に関心を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどをを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

経営学科

経営学科は、企業の経営・会計を学び、企業経営について幅広い視野と専門知識をもつ人材を育てることを教育の目的にしています。そのために、以下に示すような学生像を求めています。

- ① 企業の経営や会計を学びたいという強い意欲を持つ人
- ② 様々な社会現象を理解するために必要な幅広い基礎学力を有している人
- ③ 社会の変化に対応するために、生涯に亘って学習を続けることの必要性を認識し、その基盤となる幅広い知識と学修能力を大学で得たいと考えている人

【経営学科で学ぶために必要な能力や適性及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み】

企業の経営や会計を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報を基づいて、自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に記述する国語力が求められます。また、経営学や会計学には、高等学校の教科書レベルの数学の知識や考え方を応用する分野も含まれます。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目の基本的な知識と技能を習得しておくことが望されます。

国際性が求められる時代においては、英語を中心とする外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際ビジネスに対する理解を深めます。一方、社会問題への関心と情報収集能力が必要です。また、経済や経営、法律に関連する社会現象に関心を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどをを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

経済法学科

経済法学科は、経済と社会の規範である法律を学び、法政策について幅広い視野と専門知識をもつ人材を育てることを教育の目的とっています。そのために、以下に示すような学生像を求めています。

- ① 現代の経済と社会の仕組みや規範について考えることに関心のある人
- ② 様々な社会現象を理解するために必要な幅広い基礎学力を有している人
- ③ 社会の変化に対応するために、生涯に亘って学習を続けることの必要性を認識し、その基盤となる幅広い知識と学修能力を大学で得たいと考えている人

【経済法学科で学ぶために必要な能力や適性及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み】

経済と社会の規範である法律について理解するためには幅広い基礎知識が必要です。法律の用語や内容を理解するためには国語力が不可欠です。法律を学ぶには社会と政治についての知識が必要で、そのためには、歴史や

地理などの幅広い知識は重要なものです。国際性が求められる現代において、英語を中心とする外国語が重要であることは言うまでもありません。

そして、経済学や経営学も含めた幅広い学修が求められるため、高等学校の教科書レベルの数学の知識が必要となります。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に関心を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどをを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

入学者選抜の基本方針

経済学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての人を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】大学で学修するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解するために必要な基礎学力として、国際的な視野で情報を収集し理解するための英語力を有しているかを判断するために、個別試験によって英語の基礎学力を評価します。

【後期日程】大学で学修するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、社会科学の専門知識を得るために必要な基礎学力として、文献や資料の読解力と論理的思考能力および表現力を有している

かを判断するために、個別試験の小論文によって評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」(「普通科又はこれに準ずると本学部が認める科推薦」と「商業系の科・情報系の科・総合学科推薦」の2区分)により、入学希望者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。本学部の選考では、大学で学修するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、調査書によって高等学校での学習達成度を評価するとともに、専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性を有しているかを判断するために小論文を課し、書類審査と口頭試問によって本学部に対する明確な志望動機や入学後の学修意欲を評価します。なお、商業系の科・情報系の科・総合学科の生徒を対象にした区分では、簿記検定などの資格取得といった経済学部の勉学に関連した学習実績も評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学修するために必要な基礎学力として、日本語試験と日本語による口頭試問を行い、日本留学試験の結果と合わせて、入学後の学修に必要な語学力を持っているかを判断します。それと同時に、日本留学試験、書類審査、口頭試問によって、汎用的な学力および専門科目を学ぶために必要な基礎学力を評価します。さらに、本学部に対する明確な志望動機や入学後の学修意欲を有しているかを評価するために、書類審査と口頭試問を行います。

医 学 部

求める学生像

医学部は、教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応える良き医療人を育成し、もって医学・看護学の発展並びに地域包括医療の向上に寄与することを基本理念とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

医学科

医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めてています。

- ① 医学への志を持ち、医学・医療により社会に貢献したいと考える人
- ② 他者への思いやりを持ち、コミュニケーションを取ることができる人
- ③ 学習と医療の研鑽を努力・持続するための忍耐強さを持つ人
- ④ 医学を学ぶために必要な基礎的学力・能力を備えている人
- ⑤ 生涯を通して、医学・医療について勉学する意欲のある人

[医学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み]

医学は、生命科学を中心に自然科学のあらゆる分野が密接に関連しているとともに、人間を対象とする人文・社会科学的因素が深く関わっています。そのため、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を充分理解し、それに基づく論理的な思考ができるようにしておく必要があります。さらに、大学の学習で用いる参考書等の理解、レポートの作成、グループ討論や発表に必要な国語力、英語力およびコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。また、医学への志を確かなものにするために、医学・医療をとりまく社会に目を向け、読書やボランティア活動、医療関連に携わる先輩との交流などの取組

みを通じて、自らキャリアデザインを考える積極的な姿勢が望れます。

看護学科

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 人間に关心を持ち、人々の健康と福祉に貢献したいと願う人
 - ② 豊かな感性と表現力を身に付けている人
 - ③ 相手の立場に立って、柔軟に物事を考えられる人
 - ④ 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指そうとする人
 - ⑤ 幅広い基礎学力と論理的な思考力を備えている人
 - ⑥ 生涯を通して、看護学や医療について勉学する意欲のある人
- [看護学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み]

看護学は、健康な人から病をもつ人まで様々な健康レベルの人々を対象とした実践科学です。人間は身体的・精神的・社会的存在で、環境と相互作用しながら健康を維持しています。これらの健康のしくみには、自然・人文・社会科学的因素が深く関わっているため、看護学の学習のためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。看護実践の基礎となる、看護の知識と専門的技術の修得には、特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を理解し、論理的な思考ができるようにしておく必要があります。また、看護は人間関係を通して実施されるため、文章による意思の疎通に必要な国語力や自己・他者間の理解を共有するためのコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。大学での学習は、看護の生涯学習の基盤となるため、国内外の社会に目を向け、読書やボランティア活動などの自己啓発の取組みを通じて、自ら考える積極的な姿勢が望れます。

入学者選抜の基本方針

医学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験と調査書によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力、科学的あるいは論理的思考力および問題解決能力、明確な志望動機や入学後の意欲等、医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、個別試験において、学力検査(医学科)、小論文(看護学科)、面接試験および調査書によって評価します。

【後期日程】大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験と調査書によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、個別試験において、調査書、自己推薦書および面接試験によって評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質および経験を有し、そして本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」(看護学科)、「推薦入試Ⅱ」(医学科)、「佐賀県推薦入学」(医学科)、「帰国子女」(医学科)、「社会人」(看護学科)の5つの入試区分により、入学希望者を選考します。なお、「推薦入試Ⅱ(佐賀県枠)」と「佐賀県推薦入学」については、将来、佐賀県内の医療活動に、また「推薦入試Ⅱ(長崎県枠)」については、将来、長崎県内の医療活動に貢献したいという強い意志を持つ者を対象とします。

【推薦入試Ⅰ】(看護学科)出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、調査書と小論文によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【推薦入試Ⅱ】(医学科)出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されるこ

とを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験と調査書によって高等学校までの学習到達度を評価すると同時に、小論文によって、科学的あるいは論理的思考力および問題解決能力について評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【佐賀県推薦入学】(医学科)出願要件を満たし、佐賀県から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって高等学校までの学習到達度を評価すると同時に、小論文によって、科学的あるいは論理的思考力および問題解決能力について評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【帰国子女】(医学科)出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査と書類審査によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【社会人】(看護学科)出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、書類審査と小論文によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

3年次編入学試験(看護学科)

短期大学、専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業者で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象に3年次編入学試験を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、小論文と書類審査によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試(医学科)

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、日本留学試験、TOEFLの成績および書類審査によって評価します。さらに、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

理工学部

求める学生像

理工学部は、幅広い教養と科学・技術の専門的な素養を持ち、社会の広い分野で活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

数理科学科

数理科学科では、数学及び数理科学の領域において、広く社会で活躍できる高度な専門的知識・能力を持つ教育者、技術者、研究者となる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めていきます。

- ① 数学および数理科学の分野の専門知識を修得し、論理的思考力、問題解決能力を身につけることを目指す人
- ② 数学および数理科学の分野で、専門的知識を社会に活用できる教育者、技術者を目指す人

[数理科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

数学の概念や論理的厳密性を修得するためには、微分積分、線形代数、集合・位相といった数学の基本的な考え方や手法を身につけることが必要です。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ理科についても教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

物理科学科

物理科学科では、広範な自然現象を理解する試みを通して、現代の科学技術を支える学力と、柔軟性に富んだ豊かな発想力を培い、広い分野で活

躍できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 理数系科目的学力に優れ、自然科学に対して強い興味を持つ人
〔物理科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

物理学における基本的な概念や法則を理解するためには、高等学校で履修する物理と数学の基本的事項の理解および計算能力だけでなく、それらの知識に基づく論理的な思考力が求められます。また、実験や観測を通して法則を見出すための洞察力も必要です。さらに、専門的な知識や考え方を修得するためには、海外の文献にも目を通すことが必要であり、高等学校の教科書レベルの英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

知能情報システム学科

知能情報システム学科では、情報科学及び情報工学の学問領域における専門知識・能力及び広い視野を持ち、知識基盤社会を担う人材を育成します。そのため、以下に示すような学生を求めています。

- ① 全般的な基礎学力を備え、特に数学、理科の学力を備えた人
② ITに対する興味と基礎知識がある人
③ ソフトウェア開発や情報システムの構築に取り組む意欲のある人
〔知能情報システム学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

知能情報システム学科では、ITの理論の専門基礎を重点的に教育します。そのため、高等学校で数学及び理科の基礎事項を理解し、教科書レベルの問題を解く能力を求めます。文書作成、口頭発表の能力を育成しますので、国語の学力が重要です。専門文献を読むため及び国際社会で活躍するための語学教育に必要な英語の学力も要求します。また、幅広い文化、自然、社会の素養を修得するために広範な基礎学力も必要です。本学科では、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力などを育成します。したがって、良識的行動し、高い学習意欲を持ち、知識の獲得に積極的な学生の入学を望みます。

機能物質化学科

機能物質化学科では、化学を通して継続的に社会に貢献することのできる人材を育成します。そのため、以下に示すような学生を求めています。

- ① 日頃から身の回りにある物質・材料がどのような化合物からできている、その機能はどのような原理に基づいているのかを興味を持って調べ、自らの手で新しい機能物質を創り出すことに意欲を持つ人
② 化学はもちろん生物・物理・数学など理数系科目が得意で、国語・社会・英語などの基礎学力を身に付けた人
〔機能物質化学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

化学は、物質の構造や機能の関係性を明らかにするために、様々な物質を詳細に調べ、新しい物質の合成や分解を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このように化学を専門的に学ぶためには、高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の物理的性質や生物的性質を理解するためには物理学や生物学の知識が必要となります。したがって、高等学校で学習する数学、物理および生物の基礎学力は、化学を専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があります。基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

機械システム工学科

機械システム工学科では、機械工学及びその関連の領域において、専門的な基礎知識及びその応用力並びにものづくりの素養を身に付けた技術者となる人材を育成します。

- ① 理数系の基礎学力とともに倫理観を持ち、「ものづくり」に興味のある人
〔機械システム工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

機械工学は、すべてのものづくりに欠かせない技術であり、それを修得するためには、高等学校で学ぶ数学と物理および化学の基本的事項を理解し、教科書レベルの基本問題を解く能力を十分身につけておく必要があります。また、講義を理解して、レポートを作成したり、自分が調べたものを発表するためには、読解力や記述力を中心とする国語能力だけでなく、現代社会の仕組みや歴史、文化など高等学校の社会科で学ぶ一般的な知識も求められます。さらに、英文の読解や作成、外国人とのコミュニケーションなど様々な分野で将来的に活躍するためには、高等学校で学ぶ基礎的な英語力は欠かせないものです。そして、ものづくりを通じた社会への貢献に興味と熱意を持つことを期待します。

電気電子工学科

電気電子工学科では、電気工学及び電子工学の領域における専門的知識・能力を持ち、社会で活躍できる人材を育成します。

- ① エレクトロニクスや情報通信関連のハードウェアやソフトウェアなどの「もの創り」への関心を持ち、あるいは世界的視野に立ったエネルギー・環境問題などにも興味を持った意欲ある人
② 高校時代においては数学、物理、化学などの理数系科目的基礎学力をしっかりと身につけた人
〔電気電子工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

電気電子工学科に入学した学生は、日本の誇る大企業や九州の有力企業をはじめとする社会の第一線で活躍できるよう、電気電子工学に関連した様々な理数系専門科目を学びます。技術文書を正確に書く練習や、技術英語の修得も行います。そして、それらを駆使して社会に役立つものを創り出す研究活動も行います。そのため、入学時点での数学、物理、化学などの理数系科目的基礎学力をしっかりと身につけていることが必要です。国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。高校等での学習においては、教科書の範囲で解ける標準的な問題を、確実に解けるようにすることを望みます。社会で活躍することを目指して育成しますので、もの創りへの関心や、エネルギー・環境問題等への興味が必要であり、男女を問わず意欲ある人の入学を望みます。

都市工学科

都市工学科では、都市工学の領域における専門的知識・能力を持ち、社会で活躍できる人材を育成します。

- ① 私たちの暮らしを支える社会基盤や自然環境、建築デザインなどに興味のある人
② 専門教育に必要な基礎学力と勉学意欲を有している人
③ 自律的な学習を支える責任感、チャレンジ精神とやり遂げる強い意志を持つ人
〔都市工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

都市における交通体系や水・エネルギー供給のライフライン、建築物等のさまざまな社会基盤・施設の整備と安全・安心の確保は非常に重要ですが、同時に自然環境や歴史、風土等との調和も必要です。都市工学科では、都市や地域に関する理解、形態や空間を扱うデザインも学問対象としていますので、様々な社会的事象および文化や歴史についても関心を持つことが求められます。したがって、都市工学科の志願者には、高校で学ぶ数学・物理など自然科学の基礎力、論理的思考を支える国語力、英語で書かれた文献の理解のための英語力、さらに地域の文化や歴史に目を向け得るための社会

的な基礎知識などが求められます。

入学者選抜の基本方針

理工学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、個別試験によって数学と理科、英語の基礎学力を評価します。

【後期日程】大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、各学科の専門科目と特に関係の深い教科および科目について高い学力を有しているかを判断するために、個別試験によって各学科が指定する科目的学力を評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」「推薦入試Ⅱ」及び「帰国子女」の3つの入試区分により、入学希望者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、調査書、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【推薦入試Ⅱ】出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力、適性および明確な入学の意思を有しているかを判断するために、調査書と推薦書によって評価します。

【帰国子女】出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で

学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

3年次編入学試験

各学科の専門分野において、さらに高度な専門教育・研究を希望する他教育機関からの学生を対象に3年次編入学試験を行います。編入学試験では、「一般入試」「推薦入試」および「外国人留学生特別入試」の3つの区分により、入学希望者を選考します。

【一般入試】出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

【推薦入試】出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、推薦書、小論文および口頭試問によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【外国人留学生特別入試】出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、入学後の学習に必要な日本語の習得について判断するために、日本留学試験の成績を用いて評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力として、日本留学試験、TOEFLの成績および面接試験によって入学後の学習に必要な語学力について評価すると同時に、日本留学試験、書類審査および口頭試問によって汎用的な学力を有しているかを評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

農学部

求める学生像

農学部は、農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することを目的とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

応用生物科学科

応用生物科学科では、生物の特性を理解し、生物の改良や活用を通して、社会に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めてています。

- ① 多様な動植物の生理生態的特性の解明、バイオテクノロジーを用いた有用生物資源の開発・利用、有用動植物を加害する病害虫の制御等についての理解と関心がある人
- ② 問題解決に向けて、粘り強く自己研鑽に努める熱意と実行力がある人

③ 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

【応用生物科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み】

生物に対する興味があり、生物の機能または生物が生育する環境について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るために、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学は、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。また、その課題はグローバルな問題が多くあります。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持

つこと、さらに、教員、先輩、友人、留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が必要です。

生物環境科学科

生物環境科学科では、3つのコースにおいて次のような人材を育成します。生物環境保全学コースでは、地球上の環境や生態系を深く理解し、これらの保全、再生及び活用を通して、社会に貢献できる人材を育成します。資源循環生産学コースでは、生物科学及び生産情報科学の理論と技術を学び、環境に配慮した食糧生産と環境問題の解決に貢献できる人材を育成します。地域社会開発学コースでは、フィールドワークに基づく教育研究を通して、日本を含むアジア・太平洋諸地域における、持続可能な循環型地域社会の構築に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めてています。

- ① 自然環境、社会環境及び生物生産環境の保全と修復に興味を持つ人
 - ② 永続的な農業を可能にする新たな生物生産システム及び経済社会システムの創造に意欲がある人
 - ③ 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人
- 〔生物環境科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

人間を含む生物やそれを取り巻く環境及び人間社会に対する興味があり、これらを総合的に学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史、文化といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るために、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学の課題にはグローバルな問題が多くあり、それを解決する糸口を得るために、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人また留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が望れます。

生命機能科学科

生命機能科学科では、科学的思考力を備え、生命科学技術の応用を通して、食と健康の分野において社会に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 生体における遺伝子の発現や物質代謝とそれらの調節機構を分子レベルで理解するライフサイエンス、食品の生体調節機能、栄養機能や安全性等に興味を持っている人
 - ② 将来、本学科で学んだ知識や技術を社会で活かそうと考えている人
- 〔生命機能科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

生命現象に対する科学的興味があり、微生物から高等生物までの生命体が持つ機能について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史、文化といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。

さらに、専門的な知識や技術を得るために、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学は、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。また、その課題はグローバルな問題が多くあります。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人また留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が必要です。

入学者選抜の基本方針

農学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と

多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、個別試験によって、「数学」と「英語」の基礎学力を評価します。

【後期日程】大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を深く理解するために必要な数理的な思考力・表現力に関する高い能力を有しているかを判断するために、個別試験によって、「数学」の基礎学力を評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」と「帰国子女」の2つの入試区分により、入学希望者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査(調査書、推薦書、作文等)、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問と小論文によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【帰国子女】出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査(成績証明書等)、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問と小論文によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

3年次編入学試験

短期大学及び専修学校の卒業者等で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者学生を対象に3年次編入学試験を行います。

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、書類審査(成績証明書等)、学力検査(英語)、口頭試問および面接試験等によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力として、日本留学試験、TOEFLの成績および面接試験によって入学後の学習に必要な語学力について評価すると同時に、日本留学試験、書類審査(成績証明書等)および口頭試問によって汎用的な学力を有しているかを評価します。

また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

教育学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法	対象コース・専攻
知識・理解・解釈・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、5教科7科目(または6教科7科目)の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試(前期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		大学入試センター試験において、5教科5科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試(後期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		調査書によって、高等学校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試 (推薦入試Ⅰ:佐賀県枠を含む)	幼小連携教育コース (特別支援教育専攻) 小中連携教育コース (初等教育主免専攻)
		小論文によって、問題理解力、文章構成力、論理性、表現力、知識について評価します。	特別入試(AO入試)	小中連携教育コース
		小論文によって、問題理解力、文章構成力、論理性、表現力、知識について評価します。	一般入試(後期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		基礎学力試験によって、外国語(英語)について高等学校教科書レベルの基礎学力を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ)	幼小連携教育コース (特別支援教育専攻)
		基礎学力試験によって、外国語(英語)と数学について高等学校教科書レベルの基礎学力を評価します。	特別入試 (推薦入試Ⅰ(佐賀県枠))	小中連携教育コース (初等教育主免専攻)
		日本留学試験において、文系科目または理系科目の成績を用いて、基礎的な学力を評価します。	私費外国人留学生入試	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		日本語作文および面接試験において、基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		書類審査(成績証明書等)において、これまでの学習状況を評価します。	私費外国人留学生入試	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性	大学入試センター試験において、5教科7科目(または6教科7科目)の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試(前期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		大学入試センター試験において、5教科5科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試(後期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		個別学力検査において、高等学校で履修する英語の基礎的な知識だけでなく、長文読解力、論理的思考力および表現力等を有しているかを記述式によって評価するとともに、国語と数学のいずれか1教科について、標準的な知識と理解、それに基づく論理的な思考力を記述式によって評価します。	一般入試(前期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		個別学力検査において、高等学校で履修する英語について、基礎的な知識だけでなく、長文読解力、論理的思考力および表現力等を有しているかを記述式によって評価します。	一般入試(後期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		小論文によって、問題理解力、文章構成力、論理性、表現力、知識について評価します。	特別入試 (推薦入試Ⅰ:佐賀県枠を含む)	幼小連携教育コース (特別支援教育専攻) 小中連携教育コース (初等教育主免専攻)
		適性検査において、志望分野で学ぶために必要な基礎能力および適性について評価します。	特別入試(AO入試)	小中連携教育コース
		面接試験において、志望分野で学ぶために必要な基礎能力および適性について評価します。	特別入試(AO入試)	小中連携教育コース
		活動実績報告書によって、志望領域に関するこれまでの活動実績を評価します。	特別入試(AO入試)	小中連携教育コース
		書類審査(成績証明書等)において、これまでの学習状況を評価します。	私費外国人留学生入試	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試(推薦入試Ⅰ)	幼小連携教育コース (特別支援教育専攻)
興味・関心・態度・意欲	志望コース・専攻で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	志望理由書における志望理由を評価します。	特別入試 (推薦入試Ⅰ(佐賀県枠))	小中連携教育コース (初等教育主免専攻)
		志願理由書における志願理由を評価します。	特別入試(AO入試)	小中連携教育コース
		活動実績報告書によって、志望領域に関するこれまでの活動実績を評価します。	特別入試(AO入試)	小中連携教育コース
		面接試験において、志望コース・専攻で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試 (推薦入試Ⅰ:佐賀県枠を含む)	幼小連携教育コース (特別支援教育専攻) 小中連携教育コース (初等教育主免専攻)
		面接試験において、教育学部で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試(AO入試)	小中連携教育コース
		私費外国人留学生入試	私費外国人留学生入試	幼小連携教育コース 小中連携教育コース

芸術地域デザイン学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法	対象コース
知識・理解・解釈・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、3教科3科目の国語、外国語を中心とした基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）	芸術表現コース
		大学入試センター試験において、3教科4科目（または4教科4科目）の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程）	芸術表現コース
		大学入試センター試験において、5教科5科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程）	地域デザインコース
		大学入試センター試験において、4教科4科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（後期日程）	地域デザインコース
		総合問題によって、読解力、論理的思考力、分析力、考察力を評価します。	一般入試（前期日程）	地域デザインコース
		調査書によって、高等学校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（AO入試） 特別入試（AO入試）	芸術表現コース 地域デザインコース
		適性検査によって、基本的な学習能力を評価します。	特別入試（AO入試）	芸術表現コース 地域デザインコース
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（AO入試）	地域デザインコース
		日本留学試験において、コースが指定した科目について基礎的な学力を評価します。	私費外国人留学生入試	芸術表現コース 地域デザインコース
		日本語作文および面接試験において、基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試	地域デザインコース
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性	書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	私費外国人留学生入試	芸術表現コース 地域デザインコース
		TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試	芸術表現コース 地域デザインコース
		大学入試センター試験において、3教科3科目の国語、外国語を中心とした基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）	芸術表現コース
		大学入試センター試験において、3教科4科目（または4教科4科目）の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程）	芸術表現コース
		大学入試センター試験において、5教科5科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程）	地域デザインコース
		大学入試センター試験において、4教科4科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（後期日程）	地域デザインコース
		総合問題によって、読解力、論理的思考力、分析力、考察力を評価します。	一般入試（前期日程）	地域デザインコース
		問題解決・提案力テストによって、企画力、発想力、表現力等を含む問題解決能力及び提案力を評価します。	一般入試（後期日程）	地域デザインコース
		実技検査によって、基本的な技術を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ） 私費外国人留学生入試	芸術表現コース
		適性検査によって、基本的な学習能力を評価します。	特別入試（AO入試）	芸術表現コース 地域デザインコース
興味・関心・態度・意欲	志望コースで学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	ポートフォリオによって、これまでの作品や実績、表現力を評価します。	特別入試（AO入試） 特別入試（推薦入試Ⅰ）	芸術表現コース
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（AO入試）	地域デザインコース
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	私費外国人留学生入試	芸術表現コース 地域デザインコース
		推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ）	芸術表現コース
		志願理由書において、学習意欲を評価します。	特別入試（AO入試）	芸術表現コース 地域デザインコース
		面接試験において、志望コース・分野で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（AO入試） 私費外国人留学生入試	芸術表現コース 地域デザインコース 芸術表現コース 地域デザインコース
		特色加点申請書（申請者のみ）によって、志望領域に関するこれまでの活動実績を評価します。	特別入試（AO入試）	地域デザインコース

経済学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、4教科5科目の主要教科についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ)
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	一般入試（後期日程） 特別入試(推薦入試Ⅰ)
		日本留学試験において、文系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		面接試験において、基礎的な日本語能力を評価します。	私費外国人留学生入試
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性	大学入試センター試験において、4教科5科目の主要教科についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		個別試験で、高校で履修する「英語」における、基礎的な英文の読解力および英語作文力を記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	一般入試（後期日程） 特別入試(推薦入試Ⅰ)
		推薦書によって、高校時代に取得した資格を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ) ※商業系の科、情報系の科、総合学科推薦のみ
		口頭試問によって、本学部で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ) 私費外国人留学生入試
	興味・関心・態度・意欲	日本留学試験において、文系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	私費外国人留学生入試
		調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ)
		推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試(推薦入試Ⅰ)
		志願者本人の自筆の作文によって、志望理由、入学後の意欲等を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ)
		面接試験において、本学部で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ) 私費外国人留学生入試

医学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	評価方法	入試方法	対象学科
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な基礎学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）
		大学入試センター試験において、5教科6科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		個別試験において、高校で履修する数学、英語、物理、化学について、標準的な知識と理解、それに基づく論理的な思考力について記述式によって評価します。	一般入試（前期日程） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	一般入試（前期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験と面接試験において、基本的な日本語力を評価します。	私費外国人留学生入試
		TOEFL の得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試
		3年次編入学試験	看護学科

観点	評価方法	入試方法	対象学科
興味・関心・態度・意欲	医療従事者としての適性および明確な志望動機や入学後の意欲等 調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
		一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
		一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ）	医学科
		一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
		特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
		特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
		一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試	医学科
		一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（社会人） 3年次編入学試験	看護学科
		面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	

理工学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女）
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試（帰国子女）
		日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価する。	私費外国人留学生入試
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		TOEFL の得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		個別試験において、高校で履修する数学、物理、化学および英語に関する標準的な知識と理解、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）
		個別試験において、高校で履修する数学、物理および化学の中から1つの科目について、深い知識と理解および応用力、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試（後期日程）
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試 3年次編入学試験（一般入試）
		調査書において、専門科目を理解できる基礎学力及び適性を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅱ）

観点	入学後に必要な能力や適性等		評価方法	入試方法
思考・判断	大学で学ぶための必要な基礎学力	専門科目を学ぶために必要な基礎学力		学力検査において、数学、英語、専門科目に関する標準的な知識と理解、それに基づく論理的な思考力について記述式によって評価します。
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。		3年次編入学試験（一般入試）
興味・関心・態度・意欲	志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲		調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
			推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
			面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試

農学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等		評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女）
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試（帰国子女）
		日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価します。	日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試
		大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		個別試験において、高校で履修する「数学」について、標準的な知識と理解、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力を記述式によって評価します。また、「英語」では、長文読解力、論理的思考力等を有しているかについて記述式によって評価します。	個別試験において、高校で履修する「数学」について、標準的な知識と理解、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力を記述式によって評価します。また、「英語」では、長文読解力、論理的思考力等を有しているかについて記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）
興味・関心・態度・意欲	専門科目を学ぶために必要な基礎学力	個別試験において、高校で履修する数学について、深い知識と理解および応用力、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力を記述式によって評価します。	個別試験において、高校で履修する数学について、深い知識と理解および応用力、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力を記述式によって評価します。	一般入試（後期日程）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女）
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試
		学力検査において、英語文章の読解力について評価します。	学力検査において、英語文章の読解力について評価します。	3年次編入学試験（一般入試）
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	3年次編入学試験（一般入試）
志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		推薦書において、推薦の理由を参考にします。	推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試 3年次編入学試験（一般入試）

II 推薦入試Ⅰ〈大学入試センター試験を課さない〉

1 実施する学部、学科等、募集人員及び対象となる高等学校の科

学 部	学 科 等	募 集 人 員	対 象 と な る 高 等 学 校 の 科
教育学部 (5人)	学校教育課程 幼小連携教育コース 特別支援教育専攻	5	高等学校の全科
芸術地域 デザイン 学 部 (4人)	芸術地域 デザイン学科 芸術表現コース (注1)	4	高等学校の全科
経済学部 (60人)	経 濟 学 科	10	高等学校の商業系の科(商業高等学校の全科を含みます。) ・情報系の科及び総合学科(注2)
		10	高等学校の普通科又はこれに準ずると本学部が認める科
	経 営 学 科	20	高等学校の商業系の科(商業高等学校の全科を含みます。) ・情報系の科及び総合学科(注2)
		10	高等学校の普通科又はこれに準ずると本学部が認める科
医学部 (20人)	看 護 学 科	10	高等学校の普通科又はこれに準ずると本学部が認める科
理工学部 (17人)	知能情報システム学科	2	高等学校の情報系の科及び総合学科(注4)
	機能物質化学科	2	高等学校の工業系の科及び総合学科(注4)(注5)
	機械システム工学科	5	高等学校の機械系の科及び総合学科(注4)
	電気電子工学科	4	高等学校の電気・電子・情報系の科及び総合学科(注4)
	都市工学科	4	高等学校の土木・建築系の科及び総合学科(注4)
農学部 (30人)	応用生物学科	3	高等学校の専門系の科及び総合学科(注3)
		7	高等学校の全科(ただし、専門系の科を除きます。) (注6)
	生物環境科学科	3	高等学校の専門系の科及び総合学科(注3)
		12	高等学校の全科(ただし、専門系の科を除きます。) (注6)
	生命機能科学科	1	高等学校の専門系の科及び総合学科(注3)
		4	高等学校の全科(ただし、専門系の科を除きます。) (注6)
合 計		136	

※ 「高等学校」とは、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設とします。

(注1) 芸術表現コースに出願した者は、2年次から出願時に選択した分野に所属します。

(注2) 高等学校の商業系の科・情報系の科及び総合学科について、商業系の専門教育に関する科目(「産業社会と人間」及び情報処理に関する基礎科目を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。

(注3) 高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。

(注4) 高等学校の総合学科については、それぞれの学科に関係する専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。

(注5) 工業系の科については全科を対象とします。

(注6) 高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)の修得単位が20単位未満の者(見込みを含みます。)に限ります。

2 出願資格

推薦入試Ⅰの出願資格は、下記(1)～(3)のすべての条件を満たす者とします。

(1) 推薦要件

学部、学科		推 薦 要 件
教 育 学 部		<p>次の①、②のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>①将来、特別支援学校や小・中学校等で特別支援教育の仕事に携わる教員になることを強く志望する者 ②高等学校の調査書における評定平均値が3.8以上の者</p>
芸 術 地 域 デザイン学部		<p>学業成績、人物ともに特に優れ、芸術表現の分野における優れた経験・知識・技術・実績及び熱意があり、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p>
経 済 学 部	商業系の科・情報系の科及び総合学科推薦	<p>高等学校の成績が最終学年次（最終学年次において外国に留学した者については、その前学年次）に上位10%以内の者で、人物、学力について優れ、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>ただし、コース毎等のみの順位による推薦はできません。</p>
	普通科又はこれに準ずると本学部が認める科推薦	<p>社会科学にとりわけ関心があり、かつ、人物について優れ、全体の評定平均値が4.0以上の者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>ただし、次のうちいずれかの要件を満たす者に限ります。</p> <p>① 成績優秀な者（外国语については評定平均値4.3以上とします。） ② 社会事象についての分析や、社会的活動等において優れた実績があり、それを裏付ける資料のある者（ただし、この実績については証明する資料を添付してください。） ③ 個性的で積極性に富み、高等学校長が、大学生活においてその能力を充分に発揮できると評価し、推薦に値すると思われる者</p>
医 学 部	看 護 学 科	<p>次の①、②のすべてに該当し、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 学習成績が優秀で調査書の学習成績概評がA段階に属する者（Ⓐに該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄にⒶと標示し、「9. 備考」欄にその理由を明記してください。） ② 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた看護職者あるいは看護学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者</p>
理 工 学 部		<p>学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価されて、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>（「Ⅳ共通事項 9 理工学部への推薦に際しての留意点」（40ページ）を参照してください。）</p>
農 学 部		<p>学習成績、人物について優れ、自然科学に対する熱意と能力があると評価されて、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>ただし、高等学校の専門系の科及び総合学科の対象者は、学習成績概評が、Ⓐとして推薦できる者に限ります。これに該当する者の調査書の「4. 学習成績概評」欄にⒶと標示し、「9. 備考」欄にその理由を明示してください。</p>

* 高等学校の専門系の科及び総合学科については、14ページの（注2）～（注6）により、修得単位数を確認ください。

(2) 高等学校を平成29年3月卒業見込みの者

ただし、経済学部及び医学部看護学科については、平成28年4月以降に高等学校の卒業（修了）を認められた者を含みます。

(3) 合格した場合は、確実に入学できる者

3 推 薦 人 数

学 部	学科・課程	推 薦 人 数
教 育 学 部	学校教育課程	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、各高等学校から推薦できる人数は制限しません。
芸 術 地 域 デザイン学部	芸 術 地 域 デザイン学科	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、各高等学校から推薦できる人数は制限しません。
経 済 学 部	経 済 学 科	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、各高等学校から推薦できる人数は制限しません。
	経 営 学 科	
	経 済 法 学 科	
医 学 部	看 護 学 科	各高等学校から推薦できる人数は、2人以内とします。
理 工 学 部	知能情報システム学科	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、各高等学校から推薦できる人数は制限しません。
	機能物質化学科	
	機械システム工学科	
	電気電子工学科	
	都 市 工 学 科	
農 学 部	応用生物科学科	対象となる各高等学校の全日制、定時制及び通信制の各課程から各学科に対して推薦できる人数は、2人以内とします。
	生物環境科学科	
	生命機能科学科	専門系の科及び総合学科は、対象となる各高等学校の全日制、定時制及び通信制の各課程から推薦できる人数は、1人とします。 専門系の科を除く全科は、対象となる各高等学校の全日制、定時制及び通信制の各課程から推薦できる人数は、2人以内とします。

4 出願方法及び出願期間

(1) 高等学校長は、提出書類を取りまとめ、本学入試課で、**平成28年11月1日(火)から11月8日(火)17時**までに必着するように提出してください。

郵送の場合は、「速達書留」とし、本学所定の封筒を使用してください。

(2) 国公立大学の推薦入試（大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて）へ出願することができるのは、1つの大学・学部であるので留意してください。

ただし、本学の理工学部の「大学入試センター試験を課さない推薦入試」で不合格となつた場合には、「大学入試センター試験を課す推薦入試」において、同学部・同一学科への出願は可能です。

5 出願に必要な書類等

書類名	内 容	チェック欄
①入学検定料 17,000円	本要項に添付の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。 第1次選考の不合格者に対しては、13,000円を返還します。 第1次選考結果を通知する際に「返還請求書」等を送付しますので、必要事項を記入の上、指定する期日までに手続を行ってください。 なお、第1次選考不合格者及び下記「(1)検定料の返還請求」に該当する場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は一切返還しません。	<input type="checkbox"/>
②検定料振込証明台紙	上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C票 検定料振込証明書」を台紙に貼り付けてください。	<input type="checkbox"/>
③入 学 志 願 票	43ページの記入例を参考に必要事項を自筆で記入してください。	<input type="checkbox"/>
④写真 2 枚 (4 cm × 3 cm) 写真票・受験票	上半身脱帽正面向きで3か月以内に撮影したものを写真票及び受験票の所定欄に貼り付けてください。	<input type="checkbox"/>
⑤調 査 書	所定の様式により出身高等学校長が作成し、巻封したものを提出してください。 (注:「学習成績概評」欄に⑧と標示した場合は、必ず「備考」欄にその理由を明記してください。 「中等教育学校並びに併設型中学校及び併設型高等学校の教育課程の基準の特例を定める件」により中学時に修得した科目がある場合は、単位数及び評定を備考欄に記入してください。)	<input type="checkbox"/>
⑥高等學校長の推薦書	所定の推薦書により、出身高等学校長が作成し、巻封したものを提出してください。	<input type="checkbox"/>
⑦ポートフォリオ (活動実績ファイル) (芸術地域デザイン学部志願者のみ)	次頁の作成要領を参照の上作成してください。	<input type="checkbox"/>
⑧自己推薦書 (医学部看護学科志願者のみ)	本学所定の用紙により、志願者本人が作成したものを作成してください。	<input type="checkbox"/>
⑨志望理由書 (経済学部及び農学部志願者のみ)	それぞれの学科を志願する理由、入学後特にしたいことなどについて、志願者本人が自筆で作成したものを作成してください。 本学所定の用紙を使用し、800字程度とします。	<input type="checkbox"/>
⑩住 所 届	合格通知書は、住所届に記載された現住所に送付しますので、正確に書いてください。なお、出願後、住所に変更があった場合は、本学入試課へ電話により連絡するとともに、ハガキ等書面でもお知らせください。	<input type="checkbox"/>
⑪受験票送付用封筒	受験票を送付しますので、本学所定の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記の上、400円分の切手を貼り付けてください。	<input type="checkbox"/>

※出願用封筒に封入する際は、チェック欄で確認の上、送付してください。

(1) 検定料の返還請求

次の場合は、検定料の返還請求ができますので、必ず手続きしてください。

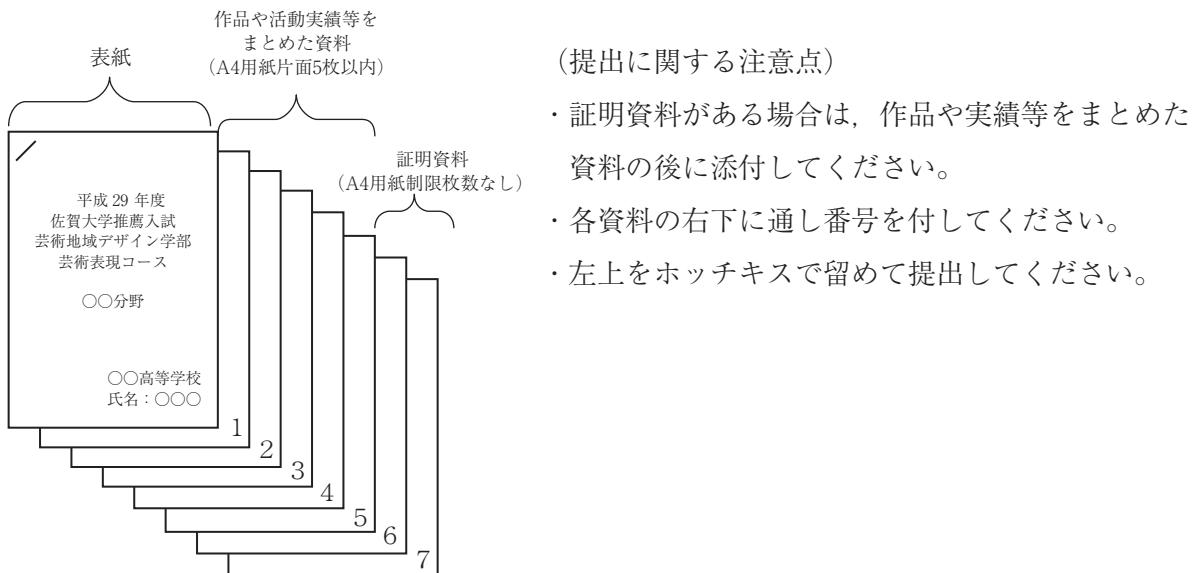
- ・ 検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合
- ・ 検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合
- ・ 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

なお、返還請求の方法等については、学務部入試課までお問い合わせください。

(2) ポートフォリオ（活動実績ファイル）の作成要領について（前頁⑦）

- ・志願者自身が制作した作品や活動実績等について、A4用紙片面5枚以内にまとめてください（内容は自由です。）。作品や活動実績等はいくつ収録しても構いません。ただし、収録する作品や活動実績等に関係ない情報は収録しないでください。
- ・収録する作品には、作品名、サイズ、素材（画材）、制作時期を記入し、共同制作の場合は、制作の過程において志願者自身が担当した内容を記入してください。
- ・展覧会、コンクール等に入選したことを裏付ける資料や、新聞、雑誌等に掲載された記事がある場合は、証明資料として、その写しを添付してください（出典、発行年月等を記載してください。）。証明資料に制限枚数はありません。
- ・ポートフォリオには、「平成29年度佐賀大学推薦入試 芸術地域デザイン学部 芸術表現コース」というタイトルとともに、志望分野、高等学校名、氏名を記載した表紙を付してください。表紙は、5枚の制限枚数には含まれません。
- ・提出されたポートフォリオは、返却いたしません。

<ポートフォリオ提出イメージ>



(3) 東日本大震災又は熊本地震で被災された佐賀大学志願者への入学検定料の免除について

1. 免除申請の要件

入学検定料の免除を申請できるのは、次に該当する者です。

- (ア) 東日本大震災における災害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、次のいずれかに該当する者
- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
 - ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合
- (イ) 居住地が福島第一原子力発電所事故により、帰還困難区域、居住制限区域又は避難

指示解除準備区域に指定された者

(ウ) 熊本地震における災害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、次のいずれかに該当する者

① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合

② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

2. 申請方法

事前に学務部入試課に連絡し、該当すると判断された者は、所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

3. 申請書類

(ア) 「入学検定料免除申請書」

本学ホームページ「入試案内、募集要項等ダウンロード」からダウンロードできます。

(イ) 「り災証明書（写し可）」（上記1. (ア)の①又は(ウ)の①に該当する者）

(ウ) 「死亡又は行方不明を証明する書類」（上記1. (ア)の②又は(ウ)の②に該当する者）

(エ) 「被災証明書（写し可）」（上記1. (イ)に該当する者）

(4) 調査書の記入について

廃校・被災その他の事情により出身高等学校長の調査書が得られない場合は、卒業証明書、成績通信簿その他志願者が提出できる書類をもって代えることができます。また、出願者が被災等により上記書類も整えられない場合は、出身学校所管の教育委員会、知事又は出身学校長が作成したこれに関する証明書を提出してください。

6 入 試 方 法

(1) 入試方法

高等学校長からの推薦に基づき、提出された調査書及び小論文、面接等の結果を総合して決定します。

なお、芸術地域デザイン学部は、入学志願者が募集人員の約10倍を超えた場合には、書類（調査書、推薦書及びポートフォリオ）により、第1次選考を行う場合があります。

第1次選考の実施の有無については、本学ホームページでお知らせします。

なお、第1次選考を実施した場合は、合格者には「受験票」及び「受験案内」等を、不合格者には「不合格通知」及び「検定料返還請求書」等を速達郵便で送付します。

[試験内容]

学部等		大学入試センター試験	小論文	面接	実技検査	その他
教 育 学 部		×	○	○	×	○ (注1)
芸術地域 デザイン学部	美術・工芸 分野	×	×	○(注2) (口頭試問 を含む)	○	×
	有田セラミック 分野	×	×	○ (口頭試問 を含む)	○	×
経 済 学 部		×	○	○ (口頭試問 を含む)	×	×
医 学 部	看護学科	×	○	○	×	×
理 工 学 部		×	○	○ (口頭試問 を含む)	×	×
農 学 部		×	○	○ (口頭試問 を含む)	×	×

(注1) 基礎学力試験（外国語）を課します。コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III・英語表現I・英語表現IIから出題します。

(注2) 集団面接とし、午後から実技検査と並行して行います。

[配点]

区分 学部・学科等		書類審査 (調査書、 推薦書等)	小論文	面接	実技検査	その他	総合得点 (総合評価)
教 育 学 部		100	100	100		100	400
芸術 地域 デザイン 学部		300		300	400		1000
経済学部	経済学科	商業系の科・ 情報系の科・ 総合学科推薦	40	100	2段階 評価 (合, 否)		2段階 評価 (合, 否)
	経営学科	普通科又はこ れに準ずると 本学部が認め る科推薦	2段階 評価				
	経済学科						
	経営学科						
	経済法学科						
医 学 部	看護学科	150	200	150			500
理 工 学 部	知能情報システム学科	2段階 評価	3段階 評価 (A, B, C)	3段階 評価 (A, B, C)			総合評価 (良, 可, 不可)
	機能物質化学科						
	機械システム工学科						
	電気電子工学科						
	都市工学科						
農 学 部	応用生物科学科	100	200	200			500
	生物環境科学科						
	生命機能科学科						

[実技検査]

美術・工芸分野	<p>(1) 出願時に下記の①②いずれかの実技検査を選択します。</p> <p>① 静物着彩 試験時間：6時間 用 紙：水彩用紙（B3）</p> <p>② 粘土による造形表現 試験時間：6時間</p> <p>(2) 持参道具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静物着彩 鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、水彩絵具（透明水彩に限ります。）、筆、筆洗、筆ふき、パレット等、静物着彩に必要な描画道具一式。 水彩用紙（B3）、イーゼルは大学で用意します。 ・粘土による造形表現 作業がしやすく、汚れてもよい服及びタオルを持参してください。粘土ペラ等粘土造形に必要な道具は大学で用意しますが、持参してもかまいません。
有田セラミック分野	<p>(1) 出願時に下記の①～③のいずれかの実技検査を選択します。</p> <p>① 静物着彩 試験時間：3時間 用 紙：水彩用紙（B3）</p> <p>② 粘土による造形表現 試験時間：3時間</p> <p>③ ろくろ造形表現 試験時間：3時間</p> <p>(2) 持参道具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静物着彩 鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、水彩絵具（透明水彩に限ります。）、筆、筆洗、筆ふき、パレット等、静物着彩に必要な描画道具一式。 水彩用紙（B3）、イーゼルは大学で用意します。 ・粘土による造形表現、ろくろ造形表現 作業がしやすく、汚れてもよい服及びタオルを持参してください。粘土ペラ等粘土造形に必要な道具は大学で用意しますが、持参してもかまいません。

(2) 採点・評価基準

学部、学科	対象となる科	実技検査等	内 容
教 育 学 部	全 科	小 論 文	出題されたテーマに対して、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。
		面 接	勉学意欲、特別支援教育への興味・関心等をみます。
		調 査 書 等	学業成績、修学状況、部活動、社会活動等をみます。
		基礎学力試験 (外国语)	高等学校の教科書程度の内容が十分理解できているかを、基礎的な問題によって評価します。
芸術地域デザイン学部	全 科	面 接	グローバルな社会問題に関心があり、芸術表現を通じて地域社会を機能的に繋げていける発想力、コミュニケーション能力等を有しているかを採点・評価基準とします。 加えて、芸術表現に関する口頭試問によって基礎的知識や制作活動の経験を把握し、芸術表現に関する意欲の高さを評価します。学習の目標が明確で、それが芸術表現コースの内容に合致する者に高い評価を与えます。
		実 技 檢 査	自らの手による表現力、発想力など芸術表現に関わる基本的な能力を有しているかを採点・評価基準とします。 静物着彩では、基礎的な造形力に加え水彩絵具による表現力なども総合的に評価します。 粘土による造形表現またはろくろ造形表現では、基礎的な造形力と表現力などを総合的に評価します。
		調 査 書 ・ ポートフォリオ等	調査書では「各教科、科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 また、推薦書とポートフォリオでは、活動実績と芸術表現に対する意欲を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。
経 済 学 部	商業系の科・情報系の科及び総合学科	小 論 文	資料を提示のうえ、それについての読解力、着眼力、思考力、文章表現力等を基準として評価します。
		面 接	高校生活の活動状況及び将来の学修意欲等について口頭試問します。
		調 査 書 等	学習状況、資格取得状況、クラブ活動等をみます。
	普通科又はこれに準ずると本学部が認める科	小 論 文	資料を提示のうえ、それについての読解力、着眼力、思考力、文章表現力等を基準として評価します。
		面 接	高校生活の活動状況及び将来の学修意欲等について口頭試問します。
		調 査 書 等	学習状況、クラブ活動等をみます。

学部、学科		対象となる科	実技検査等	内 容	
医学部	看護学科	全 科	小論文	資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性、及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。	
			面接	医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。	
			調査書等	単に学業成績優秀というのみでなく、規則的生活習慣を保ち、学習意欲・積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。なお、調査書等については面接にあたっても参考にします。	
理工学部	知能情報システム学科	情報系の科 及び総合学科	小論文	出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。	
			面接	志望学科に必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について口頭試問します。	
			調査書	学業成績、クラブ活動や、情報及び理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。	
機械工学科	機能物質化学科 機械システム工学科 電気電子工学科 都市工学科	工業系・総合学科・機械系・電気・電子・情報系・土木・建築系の科	小論文	出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。	
			面接	志望学科に必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について口頭試問します。	
			調査書	学業成績、クラブ活動や理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。	
農学部	専門系の科 及び総合学科	専門系の科 及び総合学科	小論文	出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力をみます。	
			面接	必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について、口頭試問します。	
			調査書	学業成績、修学状況、部活動及び社会活動をみます。	
	専門系の科 を除く全科	専門系の科 を除く全科	小論文	出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力をみます。	
			面接	必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について、口頭試問します。	
			調査書	学業成績、修学状況、部活動及び社会活動をみます。	

(3) 合否判定基準

学部、学科	対象となる科	内 容	
教 育 学 部	全 科	書類（調査書及び推薦書）、小論文、基礎学力試験、面接の各成績評価を総合して、合格者を決定します。	
芸術地域デザイン学部	全 科	書類（調査書、推薦書及びポートフォリオ）、面接及び実技検査の各成績評価を総合して、合格者を決定します。	
経 済 学 部	商業系の科・情報系の科及び総合学科	書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。	
	普通科又はこれに準ずると本学部が認める科	書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。	
医 学 部	看 護 学 科	全 科	小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格者を決定します。なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。
理 工 学 部	知能情報システム学科	情報系の科及び総合学科	書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。
	機能物質化学科 機械システム工学科 電気電子工学科 都 市 工 学 科	工業系・総合学科・機械系・電気・電子・情報系・土木・建築系の科	書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。
農 学 部		専門系の科及び総合学科	書類（調査書、志望理由書等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。
		専門系の科を除く全科	書類（調査書、志望理由書等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。

III 推薦入試Ⅱ 〈大学入試センター試験を課す〉

1 実施する学部、学科、募集人員及び対象となる高等学校の科

学 部	学 科	区 分	募集人員	対象となる高等学校の科
医学部 (44人)	医 学 科	一 般 枠	20	高等学校の全科
		佐賀県枠	23	
		長崎県枠	1	
理工学部 (39人)	物 理 科 学 科	—	2	高等学校の全科
	知能情報システム学科		3	
	機 能 物 質 化 学 科		10	
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科		10	
	電 気 電 子 工 学 科		4	
	都 市 工 学 科		10	
合 计			83	

※「高等学校」とは、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設とします。

2 出願資格

推薦入試Ⅱの出願資格は、下記の(1), (2)のすべての条件を満たす者とします。

(1) 推薦要件

学部, 学科	区分	推 薦 要 件
医学部 医学科	一般枠	<p>次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者(Ⓐに該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄にⒶと標示し、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記してください。)</p> <p>② 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた医師あるいは医学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者</p> <p>③ 高等学校を平成28年4月以降に卒業を認められた者又は平成29年3月卒業見込みの者</p>
	佐賀県枠	<p>次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者(Ⓐに該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄にⒶと標示し、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記してください。)</p> <p>② 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内の医療活動に貢献したいという強い意思を有する者</p> <p>③ 高等学校を平成27年4月以降に卒業を認められた者又は平成29年3月卒業見込みの者で、次のいずれかに該当する者 1) 佐賀県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者 2) 佐賀県外の高等学校を卒業又は卒業見込みの者のうち、佐賀県内の小学校、中学校のいずれかを卒業し、保護者※が佐賀県内に平成28年10月1日現在で3年以上在住している者 (出願手続時に住民票あるいは戸籍の附票で確認します。) ※保護者とは、子に対して親権を行う者、親権を行う者のないときは、未成年後見人をいう。(本学部における保護者の定義(学校教育法から引用))</p> <p>④ 大学卒業後は、佐賀県内の基幹型臨床研修病院において、初期臨床研修(2年)を受けることを確約できる者</p>
	長崎県枠	<p>次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任を持って推薦できる者</p> <p>① 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者(Ⓐに該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄にⒶと標示し、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記してください。)</p> <p>② 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、長崎県内の地域医療に貢献したいという強い意思を有する者</p> <p>③ 高等学校を平成27年4月以降に卒業を認められた者又は平成29年3月卒業見込みの者で、次のいずれかに該当する者 1) 長崎県内の小学校又は中学校を卒業した者 2) 長崎県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>④ 入学後は「長崎県医学修学資金」の貸与を受け、大学卒業後は長崎県が指定する長崎県内の医療機関等で診療に従事することを確約できる者</p>

学部、学科		区分	推薦要件			
理工学部	物理科学科 知能情報 システム学科 機能物質 化学科 機械システム 工学科 電気電子 工学科 都市工学科	—	次の各号のすべてに該当し、学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価されて、高等学校長が責任をもって推薦できる者 ① 高等学校を平成29年3月卒業見込みの者及び平成28年3月に卒業した者 ② 以下に指定している科目を履修している者	学 科 物理科学科 知能情報システム学科 機械システム工学科 電気電子工学科 都市工学科	教科 数理 数理	科目名等 数Ⅲ 物理 数Ⅲ 化学

(2) 合格した場合は、確実に入学できる者

医学部医学科の佐賀県枠及び長崎県枠について

「佐賀県枠」について

「佐賀県枠」の募集人員には、佐賀県内で医療活動に従事し地域医療を担う人材を育成するための「佐賀県医師修学資金」が貸与される5人が含まれています。

「佐賀県枠」の志願者に、奨学金貸与希望の確認を行いますが、詳細は、受験票送付時に文書にて連絡します。

1. 「佐賀県医師修学資金」貸与を希望した入学者は、佐賀県に貸与申請を行うことを原則とします。
2. 上記修学資金の貸与は、大学卒業後、佐賀県が指定する基幹型臨床研修病院において2年間の初期臨床研修を行い、その後一定期間、県が指定する県内の医療機関において医療活動に従事することを返還免除の条件としているものです。

「佐賀県医師修学資金」については、佐賀県のホームページをご確認ください。

佐賀県ホームページ <http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00334931/index.html>

「長崎県枠」について

「長崎県枠」を志願した入学者には、長崎県内で医療活動に従事し地域医療を担う人材を育成するための「長崎県医学修学資金」が貸与されます。

1. 「長崎県枠」を志願した入学者は、長崎県に貸与申請を行ってください。
2. 上記修学資金の貸与は、卒業後、長崎県が指定する基幹型臨床研修病院において2年間の初期臨床研修を行い、その後一定期間、県が指定する県内の医療機関において医療活動に従事することを返還免除の条件としているものです。

「長崎県医学修学資金」については、長崎県のホームページをご確認ください。

長崎県ホームページ [http://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/iryo/
isinoyousei/](http://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/iryo/isinoyousei/)

3 推 薦 人 数

学部	学 科	区分	推 薦 人 数
医学部	医 学 科	一般枠	各高等学校から推薦できる人数は2人以内とします。
		佐賀県枠	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、各高等学校から推薦できる人数は制限しません。
		長崎県枠	
理工学部	物 理 科 学 科	—	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、各高等学校から推薦できる人数は制限しません。
	知能情報システム学科		
	機能物質化学科		
	機械システム工学科		
	電気電子工学科		
	都 市 工 学 科		

4 出願方法及び出願期間

- (1) 高等学校長は、提出書類を取りまとめ、本学入試課あて、以下の各学部の出願期間に必着するように提出してください。
郵送の場合は、「速達書留」とし、本学所定の封筒を使用してください。

学部、学科	出 願 期 間	
医学部医学科	平成28年11月1日(火)～11月8日(火)	
理 工 学 部	平成29年1月16日(月)～1月23日(月)	17時必着

- (2) 国公立大学の推薦入試（大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて）へ出願することができるのは、1つの大学・学部であるので留意してください。
ただし、本学の理工学部の「大学入試センター試験を課さない推薦入試」で不合格となつた場合には、「大学入試センター試験を課す推薦入試」において、同学部・同一学科への出願は可能です。

5 出願に必要な書類等

書類名	内 容		チェック欄	
①入学検定料 17,000円	本要項に添付の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。 第1次選考（「6 入試方法」参照）の不合格者に対しては、13,000円を返還します。 第1次選考結果を通知する際に「返還請求書」等を送付しますので、必要事項を記入の上、指定する期日までに手続を行ってください。 なお、第1次選考不合格者及び次頁「(1)検定料の返還請求」該当する場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は一切返還しません。	□	□	医学部 理工学部
②検定料振込証明台紙	上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C票 検定料振込証明書」を台紙に貼り付けてください。	□	□	
③入 学 志 願 票	43ページの記入例を参考に必要事項を自筆で記入してください。	□	□	
④写真 2 枚 (4 cm × 3 cm) 写真票・受験票	上半身脱帽正面向きで3か月以内に撮影したものを写真票及び受験票の所定欄に貼り付けてください。	□	□	
⑤大学入試センター試験 成績請求票	○医学部医学科志願者 大学入試センター試験成績請求票は、本学出願時点では大学入試センターから志願者へ送付されていませんので、以下の要領でお送りください。 ・成績請求票は平成28年12月14日までに、大学入試センター試験の受験票と一緒に送付されます。 ・届いた成績請求票から「平成29センター試験成績請求票国公立推薦入試用」を丁寧に切り離し、その余白に佐賀大学の受験番号を記入してください。 ・成績請求票は配達記録付きの簡易書留やレターパックなどにより平成28年12月28日(水)必着で入試課あてに送付してください。(封筒の指定はありません。) ○理工学部志願者 大学入試センター成績請求票は、入学志願票に貼り付けて出願してください。	□	□	
⑥調 査 書	所定の様式により出身高等学校長が作成し、厳封したものを提出してください。 (注: 「学習成績概評」欄にⒶと標示した場合は、必ず「備考」欄にその理由を明記してください。 「中等教育学校並びに併設型中学校及び併設型高等学校の教育課程の基準の特例を定める件」により中学時に修得した科目がある場合は、単位数及び評定を備考欄に記入してください。)	□	□	
⑦高等学校長の推薦書	所定の推薦書により、出身高等学校長が作成し、厳封したものを提出してください。	□	□	
⑧自 己 推 薦 書	本学所定の用紙により、志願者本人が作成したものを提出してください。	□		
⑨佐賀県枠・長崎県枠 志願理由書・確約書	本学所定の用紙により、志願者本人が作成したものを提出してください。	対象者 のみ		
⑩卒業証明書等	佐賀県枠において、佐賀県外の高等学校を卒業した者及び卒業見込みの場合は、小学校、中学校いずれかの卒業証明書などを提出してください。 (推薦要件に指定されている県内の学校を卒業している証明となるもの: 卒業証書の写しなど)	対象者 のみ		
	長崎県枠において、長崎県外の高等学校を卒業した者及び卒業見込みの場合は、小学校、中学校いずれかの卒業証明書などを提出してください。 (推薦要件に指定されている県内の学校を卒業している証明となるもの: 卒業証書の写しなど)	対象者 のみ		
⑪住民票あるいは戸籍の 附票の写し	佐賀県枠において、佐賀県外の高等学校を卒業した者及び卒業見込みの場合は、保護者の住民票あるいは戸籍の附票の写しを提出してください。 (平成28年10月1日以降に発行されたものに限ります。)	対象者 のみ		
⑫住 所 届	合格通知書は、住所届に記載された現住所に送付しますので、正確に書いてください。なお、出願後、住所に変更があった場合は、本学入試課へ電話により連絡するとともに、ハガキ等書面でもお知らせください。	□	□	
⑬受 験 票 送 付 用 封 筒	受験票を送付しますので、本学所定の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記の上、400円分の切手を貼り付けてください。	□	□	

※出願用封筒に封入する際は、チェック欄で確認の上、送付してください。

(1) 検定料の返還請求

次の場合は、検定料の返還請求ができますので、必ず手続きしてください。

- ・検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合
- ・検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合
- ・検定料を誤って二重に振り込んだ場合

なお、返還請求の方法等については、学務部入試課までお問い合わせください。

(2) 東日本大震災又は熊本地震で被災された佐賀大学志願者への入学検定料の免除について

1. 免除申請の要件

入学検定料の免除を申請できるのは、次に該当する者です。

(ア) 東日本大震災における災害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、次のいずれかに該当する者

- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
- ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

(イ) 居住地が福島第一原子力発電所事故により、帰還困難区域、居住制限区域又は避難指示解除準備区域に指定された者

(ウ) 熊本地震における災害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、次のいずれかに該当する者

- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
- ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

2. 申請方法

事前に学務部入試課に連絡し、該当すると判断された者は、所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

3. 申請書類

(ア) 「入学検定料免除申請書」

本学ホームページ「入試案内、募集要項等ダウンロード」からダウンロードできます。

(イ) 「り災証明書（写し可）」（上記1. (ア)の①又は(ウ)の①に該当する者）

(ウ) 「死亡又は行方不明を証明する書類」（上記1. (ア)の②又は(ウ)の②に該当する者）

(エ) 「被災証明書（写し可）」（上記1. (イ)に該当する者）

(3) 調査書の記入について

廃校・被災その他の事情により出身高等学校長の調査書が得られない場合は、卒業証明書、成績通信簿その他志願者が提出できる書類をもって代えることができます。また、出願者が被災等により上記書類も整えられない場合は、出身学校所管の教育委員会、知事又は出身学校長が作成したこれに関する証明書を提出してください。

6 入 試 方 法

(1) 入試方法

医学部

高等学校長からの推薦に基づき、提出された調査書等及び小論文、面接、大学入試センター試験成績等を総合して決定します。

なお、入学志願者が、一般枠及び佐賀県枠は募集人員の約5倍、長崎県枠は約10倍を上回り、試験を適切に行なうことが困難であると予想される場合には、書類(調査書、推薦書等(学校長推薦書))による第1次選考を実施することがあります。

第1次選考の実施の有無については、本学ホームページでお知らせします。

第1次選考を実施した場合は、合格者には「受験票」及び「受験者注意事項」等を、不合格者には「不合格通知」及び「検定料返還請求書」等を速達郵便で送付します。

理工学部

高等学校長からの推薦に基づき、提出された調査書、推薦書及び大学入試センター試験成績を総合して決定します。

[試験内容]

学部、学科	大 学 入 試 セ ジ ナ ー 試 験	小論文	面 接
医 学 部 医 学 科	○	○	○
理 工 学 部	○	×	×

大学入試センター試験の成績は、平成29年度大学入試センター試験の成績を用いることとし、受験を要する教科・科目（次ページ参照）のうち1つでも受験しなかった者は、失格となりますので注意してください。

[科目・配点等]

学部	学 科	利用教科	科 目 名 等	配 点	配点合計
医学部	医学科	大学入試センター試験	国	国【必須】	160
			地歴・公民	世B, 日B, 地理B, 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から 1 (注1)	80
			数	数I・数A【必須】 数II・数B, 簿・会, 情から 1 (注2)	160
			理	物【必須】 化【必須】	160
			外	英【必須】(注3)	160
			その他	書類審査(調査書, 推薦書等)	280
				小論文	120
				面接	120
					1240
理工学部	知能情報システム学科 機能物質化学科 電気電子工学科	大学入試センター試験	国	国【必須】	100
			地歴・公民	世B, 日B, 地理B, 倫・政経 } から 1 (注1)	100
			数	数I・数A【必須】 数II・数B, 簿・会, 情から 1 (注2)	300
			理	物, 化, 生, 地学から 2	250
			外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1 (注3)	250
			その他	書類審査(調査書, 推薦書)	2段階評価 (合・否)
					1000
	物理科学科 機械システム工学科 都市工学科	大学入試センター試験	国	国【必須】	100
			地歴・公民	世B, 日B, 地理B, 倫・政経 } から 1 (注1)	100
			数	数I・数A【必須】 数II・数B, 簿・会, 情から 1 (注2)	300
			理	物【必須】 化, 生, 地学から 1	250
			外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1 (注3)	250
			その他	書類審査(調査書, 推薦書)	2段階評価 (合・否)
					1000

【利用教科・科目名等】欄

- (注1) 地理歴史及び公民において、2科目受験した場合は、受験した科目のうち「第1解答科目」の得点を採用します。
- (注2) 「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者に限ります。
- (注3) 外国語において英語を受験した者については、リスニングを受験してください。リスニング未受験の者については、失格とします。(大学入試センターにおいて審査の上、リスニングの免除を許可された者を除きます。)

【配点】欄

(医学部医学科)

英語は筆記試験(200点満点)を128点に、リスニング(50点満点)を32点に圧縮し、合計160点とします。リスニングを免除された者については、筆記試験(200点満点)を160点に換算します。

(理工学部)

英語は筆記試験200点、リスニング50点とします。なお、リスニングを免除された者については、筆記試験(200点満点)を250点に換算します。

(2) 採点・評価基準

学部、学科		対象となる科	実技検査等	内 容
医学部	医 学 科	全科	小論文	資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。
			面接	医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。
			調査書等	単に学業成績優秀というのみでなく、規則的生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。なお、調査書等については面接にあたっても参考にします。
理工学部	物理科学科 知能情報システム学科 機能物質化学科 機械システム工学科 電気電子工学科 都 市 工 学 科	全科	調査書	高校での履修状況、修学状況（出席等）、生活態度等について総合的に評価します。
			推薦書	「推薦の理由」が理工学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）における「求める学生像」を踏まえた内容になっているかを確認します。

(3) 合否判定基準

学部、学科		対象となる科	内 容
医学部	医 学 科	全科	大学入試センター試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格者を決定します。なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。また、大学入試センター試験の成績が本学の基準を満たしていない場合は、不合格とすることがあります。
理工学部	物理科学科 知能情報システム学科 機能物質化学科 機械システム工学科 電気電子工学科 都 市 工 学 科	全科	大学入試センター試験の成績、調査書及び推薦書を総合して合格者を決定します。なお、大学入試センター試験の成績が本学の定める基準を満たしていない場合は、不合格とすることがあります。

IV 共通事項

1 入室又は集合時間

受験者は、各学部が指定した場所に入室又は集合してください。

○教育学部、経済学部、農学部の受験者は試験開始30分前までに指定された試験室に入室してください。

○芸術地域デザイン学部、理工学部、医学部の受験者は試験開始30分前までに指定された場所に集合してください。

2 試験日時、試験内容及び試験場

学 部 等	試験日時	試験時間	試験内容	試験場
教 育 学 部	平成28年 12月 2 日(金)	9 : 30～11 : 00	小論文	教 育 学 部 (本庄キャンパス)
		11 : 20～12 : 30	基礎学力試験(外国語)	
		13 : 30～	面接	
芸 術 地 域 デザイン学部	9 : 30～16 : 30 (注1)	実技検査	芸 術 地 域 デザイン学部 (本庄キャンパス)	
		面接(注2)		
	9 : 30～12 : 30	実技検査		
	13 : 30～16 : 30	面接		
経 済 学 部	10 : 00～11 : 30	小論文	経 済 学 部 (本庄キャンパス)	
	12 : 30～	面接		
理 工 学 部 (推 薦 入 試 I)	10 : 00～11 : 30	小論文	理 工 学 部 (本庄キャンパス)	
	12 : 30～	面接		
農 学 部	10 : 00～11 : 30	小論文	農 学 部 (本庄キャンパス)	
	12 : 30～	面接		
医 学 部	平成28年 12月 3 日(土)	9 : 30～11 : 00	小論文	医 学 部 (鍋島キャンパス)
		12 : 30～	面接	

(注1) 美術・工芸分野の実技検査は昼食休憩1時間(12:30～13:30)をはさみ、前・後半6時間で1課題を解答します。昼食休憩時間の弁当購入や外食はできませんので、各自昼食を用意してください。

(注2) 集団面接(3～5名)とし、午後から実技検査と並行して行います。

3 障がい等を有する志願者との事前相談について

障がい等を有する志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、出願前に下記の内容を記載した申請書（様式は任意）を入試課に送付し相談してください。

なお、本学では、学生支援室を設置して、障がい等のある学生及び障がい等のある入学志願者への支援を行っています。

* 申請書の内容

志願学部・学科（コース・専攻）

障がいの種類・程度

受験上の配慮を希望する事項

修学上の配慮を希望する事項

出身学校等でとらっていた配慮

日常生活の状況

連絡先（氏名、電話番号、住所、出身高校）

○相談の時期

平成28年10月7日(金)まで

なお、相談の内容によっては、本学の試験までに対応できず、配慮を希望される措置が講じられない場合がありますので、可能な限り早めに相談してください。

また、期限後に本学を志願することとなった場合及び不慮の事故等により障がいを有することとなった場合は、その時点で速やかに相談してください。

4 合格者の発表

(1) 合格者の発表は、本学「学務部入試課（佐賀市本庄町1番地）」前に合格者の受験番号を掲示するほか、本学所定の合格通知書をもって通知します。

なお、推薦した高等学校長に対しては合否を通知します。

また、合格者発表日の10時30分頃から本学ホームページでも確認できます。

(2) 日時

○教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、医学部（看護学科）、

理工学部（推薦入試Ⅰ）、農学部

平成28年12月12日(月) 10時

○医学部（医学科）、理工学部（推薦入試Ⅱ）

平成29年2月8日(水) 10時

(3) 電話による合否に関する問い合わせには一切応じかねますのでご了承ください。

5 入学手続

(1) 入学手続期間

入学手続書類は、以下の期間に必着するように発送してください。なお、特別な事情により入学を辞退する場合は、入学手続期間の最終日までに入学辞退の手続を行う必要があります。

推薦入試Ⅰ	平成29年1月16日(月)～1月19日(木) 17時
推薦入試Ⅱ	平成29年2月13日(月)～2月15日(水) 17時

(2) 入学手続の内容

前記(1)の入学手続期間内において、次に掲げる関係書類の提出及び入学料の納入を完了してください。

① 入学手続関係書類

本学所定の誓約書及び学生カード（合格者に対し、合格通知書と同時に郵送します。）、写真（2枚）

② 入学料

282,000円（入学手続時に納入してください。）

※この金額は、平成28年4月現在のものです。

（留意事項）

① 入学時に入学料の改定が行われた場合には、改定後の入学料を納入していただくことになります。

なお、合格通知書送付の際、納入方法を含め、改めてお知らせします。

② 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

③ 下記「入学料免除の申請対象者」のいずれかに該当する特別な事情により入学料の納入が著しく困難であると認められる場合、定められた資格・基準等に基づき書類選考を行い、入学料の全額又は半額免除及び徴収を猶予する制度があります。申請方法等については、学生生活課（0952-28-8486）にお問い合わせください。

入学料免除の申請対象者

- ・入学前1年以内に学資負担者が死亡した方
- ・入学前1年以内に本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた方

(3) 入学辞退について

推薦入試の合格者は、本学へ入学しなければなりません。ただし、特別な事情により入学辞退の必要が生じた場合には、合格者を推薦した高等学校長から、推薦入試Ⅰについては平成29年1月19日(木)までに、推薦入試Ⅱについては平成29年2月15日(水)までに、辞退の理由を付した「推薦入試入学辞退理由書」（様式任意）を学務部入試課に提出し、本学の許可を得なければなりません。

本学の許可を得ないまま、国公立大学の個別学力検査等を受験しても合格者とはなりません。

(4) 入学準備学習について

理工学部合格者には、合格者発表後から入学するまでの間に、次の入学準備学習をしていただきます。

- 数学（数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B）のeラーニング

※ eラーニングとはインターネットなどのコンピューターネットワークを通じて学習する方式です。

受講方法などは合格通知書に同封の書類をご参照ください。

6 授業料について

(1) 授業料の金額

前期分：267,900円 後期分：267,900円 [年額535,800円]

※この金額は、平成28年4月現在のものです。

(2) 納入方法

授業料は「口座振替制度」の利用をお願いしています。

(3) 口座振替日

前期分：平成29年5月29日(月) 後期分：平成29年11月27日(月)

(留意事項)

① 入学時又は在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料を納入していくことになります。

② 下記「授業料免除の申請対象者」のいずれかに該当する場合、定められた資格・基準等に基づき書類選考を行い、授業料（半期分）の全額又は半額を免除する制度があります。申請方法等については、学生生活課（0952-28-8486）にお問い合わせください。

授業料免除の申請対象者

- ・経済的理由（各種ローンや負債等の返済を除く）によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方

- ・入学前1年内に学資負担者が死亡した方、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難と認められる方

7 佐賀大学の一般入試を志願する場合

推薦入試の不合格者で、本学の一般入試に出願する場合は、「一般入試学生募集要項」に従って、出願してください。なお、医学部医学科及び理工学部（推薦入試Ⅱ）については、合格者発表前に出願することになりますので、注意してください。

8 受験にあたっての主な注意事項

- (1) 試験室では受験番号と机上の番号が一致するように着席し、受験票を机上の右上に置いてください。机上には、受験票、筆記用具、眼鏡及び時計（計時機能だけのもの）以外のものは置かないでください。その他の荷物は監督者の指示に従い、机の下又は横に置いてください。
- (2) スマートフォンや携帯電話等の電子機器類を持参した場合は、試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切ってかばん等に入れておいてください。
- (3) 試験時間中、トイレを申し出たい者及び気分の悪くなった者等は、手を挙げて監督者の指示を受けてください。
- (4) 受験票を忘れたとき又は紛失したときは、直ちに担当者に申し出て指示を受けてください。
- (5) 弁当及び飲み物は、各自持参してください。
- (6) 受験できなくなった場合は、試験日の前日までに学務部入試課まで連絡してください。
- (7) 受験票は、合格者発表後の入学手続の際に必要なので保管しておいてください。
- (8) 試験開始後30分以上遅刻した者は入室できません。また、試験途中での退室は認めません。
- (9) 面接では、受付入室から退室解散までの所要時間が多少長くなることもあるので、その心づもりでいてください。
- (10) 芸術地域デザイン学部の実技検査は、昼食休憩1時間を含め試験途中での退室は認めておりません。このため、弁当購入や外食ができませんので、必ず昼食を持参してください。
なお、昼食場所は別途準備しています。

スマートフォンや携帯電話等の電子機器類については、休憩時間内を含めてその使用を禁止しますので試験終了までお預かりします。

9 理工学部への推薦に際しての留意点

(1) 推薦入試制度（推薦入試Ⅰ）の特色と推薦の要件

本学部において実施する推薦入試制度（推薦入試Ⅰ）の特色は、大学入試センター試験を免除して、高等学校から提出される書類並びに小論文及び面接（口頭試問を含みます。）によって合否を判定するところにあります。

本制度は、次のいずれかの項に該当する人物・成績ともに優れた生徒が推薦により入学できる制度です。

ア 情報系の科及び総合学科の優秀な生徒

大学での修学に意欲を燃やす優秀な生徒に対して2人の定員枠を確保しており、推薦入試の方法によって入学の道を開き、その優れた素質を伸ばすことを目的としています。

イ 工業系の科及び総合学科の優秀な生徒

大学での修学に意欲を燃やす優秀な生徒に対して各学科2～5人の定員枠を確保しており、推薦入試の方法によって入学の道を開き、その優れた素質を伸ばすことを目的としています。

(2) 推薦方法

推薦に必要な書類は、次のとおりです。

ア 調査書

イ 推薦書（本学指定様式）

10 佐賀大学生協からのお知らせ

(1) 受験者の宿泊斡旋は行いません。

宿泊を必要とする場合は、次のところに照会すると便利です。

なお、この他、宿泊斡旋を行うところもあります。

● JTB コンベンションサポートセンター

〒810-0072 福岡市中央区長浜1-1-35 新KBCビル6F 電話092-751-2102

営業時間は月～金曜日の9:30～17:30（土日祝日は休み）

※詳細は同封の「佐賀大学生協からの受験宿泊ご案内」を参照ください。

● 日本旅行佐賀支店

〒840-0816 佐賀市駅南本町3-7 電話0952-24-2218

営業時間は月～金曜日の9:30～17:30（土日祝日は休み）

(2) アパート・マンション等の紹介、教科書教材等の資料請求について

合格者へのアパート・マンション等の紹介は、佐賀大学生活協同組合（以下、佐賀大学生協と略す）や周辺不動産業者が行っています。受験時に資料請求案内を配布しますが、早めの資料請求予約、問合せは以下までお願いします。教科書、教材等の案内も平成29年3月初旬に佐賀大学生協から送付致します。

佐賀大学生活協同組合 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学キャンパス内

電話（代表）0952-25-4450 月曜～金曜10:00～17:00

<http://kyushu.seikyou.ne.jp/scoop/> 「佐賀大学生協」で検索下さい。

11 入学志願票等の記入上の注意及び記入例

- (1) 志願票の記入に当たっては、募集要項を熟読の上、下記の「記入例」に従い記入してください。
- (2) 学科のコード番号を記入する欄は「電算処理コード表（45ページ）」を参照し、正確に記入してください。
- (3) すべての書類の記入に当たっては、黒のボールペン等（消せるボールペンは不可）を用い、文字及び数字（算用数字）はていねいに記入してください。
- (4) ※印欄は、記入しないでください。

(記入例)

「氏名」の欄

フリガナ (カタカナ)	サカハ	マナブ									
漢字氏名	佐賀	学									

●常用漢字で記入してください。

(JIS漢字コードの第1・第2水準以外の文字を含む場合、その文字が置き換えられることがあります)

【置き換えられる文字の例】

高 → 高	崎 → 崎	棄 → 桑
主 → 土	吉 → 吉	原 → 原

「性別」及び「生年月日」の欄

性別		生年月日				
男	女	昭和	平成	年	月	日
①	2	S	(H)	/ 0	0 8	2 3

●性別欄は、該当するコード番号の数字を○で囲んでください。

●生年月日欄は、昭和・平成の該当するコード（S又はH）を○で囲み、生年月日は、1ケタの場合は右づめとし、前1コマに「0」を記入してください。なお、平成元年は、01と記入してください。

「志望学部」及び「志望学科等」の欄

[推薦入試Ⅰ] (教育学部の例) (芸術地域デザイン学部の例) (経済学部の例) (医学部看護学科の例)

志望学部		学校教育		芸術地域デザイン		経済		看護	
教 育 学 部	芸 術 地 域 デ ザ イ ン 学 部	経 済 学 部	医 学 部	理 工 学 部	農 学 部	志 望 学 科 等	志 望 学 科 等	志 望 学 科 等	志 望 学 科 等
⑥	7	2	5	3	4	0	1	0	1

(理工学部の例)

(農学部の例)

機械システム工	
志 望 学 科 等	学 科 課 程
0	コース
5	専攻 分野

応用生物科	
志 望 学 科 等	学 科 課 程
0	コース
1	専攻 分野

[推薦入試Ⅱ] (医学部医学科の例) (理工学部の例)

志望学部		志望学科		志望学科	
医 学 部	理 工 学 部	医 学 科		電 気 電 子 工 学 科	
⑤	3	0	1	0	6

●志望学部のコード番号の数字を○で囲んでください。

●志望学科名等と、「電算処理コード表（45ページ）」により、該当する学科等のコード番号の数字を1コマ1ケタずつ、正確に記入してください。

「かさぎ奨学金希望」の欄

かさぎ奨学金 希望欄	
希望する	希望しない
(1)	2

- かさぎ奨学金（49ページ参照）の希望の有無について該当する番号に○印を付してください。

「芸術地域デザイン学部志願者のみ」の欄

志望分野	美術・工芸 分野
実技検査	静物着彩

- 志望分野は「美術・工芸分野」又は「有田セラミック分野」のいずれかを記入してください。
- 実技検査は22ページを参考に「静物着彩」「粘土による造形表現」「ろくろ造形表現」のいずれかを記入してください。（ろくろ造形表現は有田セラミック分野のみ）

「出願資格」の欄

出身学校所在地及び出身学校名	出 須 資 格												
	高 等 学 校												
	課 程		学 科					卒業見込み・卒業の別					
都道 国立 (公立)		全	定	通	普	理	農	工	商	総	1 ～ 6 以外 の 学 科	卒 業 見 込 み	卒 業 年
府県 私立		日	時	信	通	数	業	業	業	合	学		
佐賀 高等学校		制	制	制	科	科	科	科	科	科	科		
高等学校等コード	4 / / 2 3 A	(1)	2	3	(1)	2	3	4	5	6	7	(1)	2

- 「出身学校所在地及び出身学校名」欄に所要事項を記入し、該当事項を○で囲んでください。
- 「高等学校等コード」欄に本学ホームページ「入試案内、募集要項等ダウンロード」に掲載している「高等学校等コード表」により、該当するコード番号を記入してください。
- 「高等学校」欄の該当する事項のコード番号の数字を○で囲んでください。
ただし、「卒業見込み」の者は、卒業年は記入しないでください。

「現住所及び連絡先等」の欄

- 本学から出願書類等について連絡する場合もありますので、正確に書いてください。
なお、出願後、この欄に変更があった場合は、本学入試課へ電話により連絡するとともに、ハガキ等書面でもお知らせください。

電算処理コード表

《学部コード》

学 部	コ ード
教 育 学 部	6
芸 術 地 域 デザイン学部	7
経 済 学 部	2
医 学 部	5
理 工 学 部	3
農 学 部	4

《学科等コード》

学 部	学 科 等	コ ード
教 育 学 部	学校教育課程 幼小連携教育コース 特別支援教育専攻	01
芸 術 地 域 デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース	01
経 済 学 部	経 済 学 科	01
	経 営 学 科	02
	経 済 法 学 科	03
医 学 部	医 学 学 科	01
	看 護 学 科	02
理 工 学 部	物 理 科 学 学 科	02
	知能情報システム学科	03
	機能物質化学科	04
	機械システム工学科	05
	電気電子工学科	06
	都 市 工 学 科	07
農 学 部	応用生物科学科	01
	生物環境科学科	02
	生命機能科学科	03

12 請求により本人に開示される個人情報

開示種類	平成29年度入学試験成績（簡易書留で郵送）及び調査書（閲覧のみ）
申請期間	平成29年5月1日(月)～平成29年5月31日(木)まで（必着）
受付時間	9:00～17:00（土曜、日曜、祝日を除きます。）
申請者	受験者本人に限ります。
申請方法	下記方法により、本学所定の申請書に必要事項を記入の上、申請してください。 なお、電話及び代理人による申請は認めません。 1 直接来学（学務部入試課で受け付けます。） 2 郵送
申請書の請求	申請書は本学ホームページからダウンロードできます。 ホームページから申請書をダウンロードできない方は、本学あての封筒の表面に、「入試情報開示申請書請求」と朱書し、返信用封筒（郵送先を明記し82円分の切手を貼付したもの）を同封の上、学務部入試課に請求してください。申請書の請求は、代理人でも可能です。
申請に際し必要なもの	1 本学受験票 ・紛失の際は、写真入りの公的身分証明書等を持参してください。その際も受験番号は明確にする必要があります。なお、受験票は、成績郵送の際等にお返しいたします。 2 返信用封筒（長形3号の封筒に392円分の切手を貼ったもの） ・調査書のみの開示請求については、不要です。 3 印鑑（申請書に押印）
開示内容	当該年度のみ開示します。 ○入学試験成績（受験者本人へ簡易書留で郵送） ・小論文、実技検査及び面接等を得点又は段階評価で開示 医学部は、合格者に総点を、不合格者に合格最低点との得点差をランク別に開示します。なお、第1次選考不合格者には開示していません。 ○調査書（閲覧のみ） ・窓口で閲覧となります。（ただし「指導上参考となる諸事項」と「備考欄」は非開示）
開示手続期間	申請受付から発送まで、3週間程度かかりますので御了承ください。

13 個人情報の取扱いについて

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律の施行に伴い、入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、入学者選抜に係る業務（統計処理などの付随する業務を含む）以外に、教育目的等（入学料・授業料免除、（入学料徴収猶予）及び奨学金等を含む）に利用します。

国公立大学の一般入試における合格決定業務を円滑に行うため、受験者氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限り、推薦入試の合格及び入学手続き等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されることをあらかじめお知らせします。

本学が取得した個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供する事はありません。

14 入学後のコース・分野及び配属時期

学 部	学 科 等	コース・分野	配属の時期
理 工 学 部	機能物質化学科	物質化学コース	入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。
		機能材料化学コース	
	都 市 工 学 科	都市環境基盤コース	入学して1年半後にそれぞれのコースに分かれます。
		建築・都市デザインコース	
農 学 部	生物環境科学科	生物環境保全学コース	入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。
		資源循環生産学コース	
		地域社会開発学コース	
芸 術 地 域 デ ザ イ ン 学 部	芸 術 地 域 デ ザ イ ン 学 科	美術・工芸分野	2年次から出願時に選択した分野に所属します。
		有田セラミック分野	

15 過去3ヶ年の志願者等状況

学部、学科、課程等		対象となる高等学校の科	平成26年度				平成27年度				平成28年度						
			募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
教育学部	学校教育課程 幼小連携教育コース 特別支援教育専攻	全科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	9	9	5	5
	小 計		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	9	9	5	5
芸術地域デザイン学部	芸術地図デザイン学科 芸術表現コース	全科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	18	18	5	5
	小 計		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	18	18	5	5
経済学部	経済学科	商業系の科・情報系の科・ 及び総合学科	10	9	9	8	8	10	13	13	11	11	10	15	15	13	13
	経営学科		20	34	34	23	23	20	27	27	20	20	20	27	27	20	20
	経済学科	普通科又はこれに準ずる と本学部が認め る科	10	19	18	11	11	10	30	30	11	11	10	36	36	12	12
	経営学科		10	13	13	8	8	10	22	22	10	10	10	17	17	11	11
	経済法学科		10	16	16	10	10	10	19	19	8	8	10	11	10	2	2
	小 計		60	91	90	60	60	60	111	111	60	60	60	106	105	58	58
	医学科	一般枠	20	60	60	20	20	20	59	59	20	20	20	63	63	20	20
	医学科	佐賀県枠	23	56	56	23	23	23	52	52	23	23	23	56	56	23	23
医学部	長崎県枠	全科	1	1	1	0	0	1	4	4	1	1	1	1	1	1	1
	看護学科	全科(注)	20	83 (3)	83 (3)	20 (1)	20 (1)	20	62 (2)	62 (2)	21 (0)	21 (0)	20	83 (0)	83 (0)	20 (0)	20 (0)
	小 計		64	200	200	63	63	64	177	177	65	65	64	203	203	64	64
	知能情報システム学科	推薦入試 I 情報系の科・ 総合学科	2	7	7	3	3	2	6	6	3	3	2	6	6	2	2
理工学部	知能情報システム学科	推薦入試 II 全科	—	—	—	—	—	3	12	12	4	4	3	11	11	2	2
	機機能物質化学科	推薦入試 I 工業系の科・ 総合学科	2	3	3	2	2	2	2	2	1	1	2	1	1	1	1
	機機能物質化学科	推薦入試 I 普通科・理数 科・総合学科	10	21	21	10	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	機械システム工学科	推薦入試 II 全科	—	—	—	—	—	10	17	17	3	3	10	19	19	11	11
	機械システム工学科	推薦入試 I 機械系の科・ 総合学科	5	12	12	5	5	5	5	5	5	5	5	10	10	5	5
	機械システム工学科	推薦入試 II 全科	—	—	—	—	—	10	17	16	5	5	10	29	29	12	12
	電気電子工学科	推薦入試 I 電気・電子・ 情報系の科・ 総合学科	4	18	18	4	4	4	7	7	4	4	4	8	8	4	4
	電気電子工学科	推薦入試 II 全科	—	—	—	—	—	4	7	7	2	2	4	15	15	4	4
都市工学科	都市工学科	推薦入試 I 土木・建築系 の科・総合学科	4	4	4	4	4	4	7	7	4	4	4	27	27	5	5
	都市工学科	推薦入試 I 普通科・理数 科・総合学科	10	38	38	10	10	10	28	28	12	12	10	11	11	9	9
	小 計		37	103	103	38	38	54	108	107	43	43	54	137	137	55	55
	合 計		191	458	456	189	189	208	476	475	198	198	217	538	537	212	212

(注) 医学部看護学科の募集人員のうち2人以内を、専門系の科及び総合学科から募集します。その実績を()内で内数としています。

16 佐賀大学予約型奨学金（かささぎ奨学金）について

本奨学金は、本学に強く入学を希望する学業優秀な者について、入学前の申請により入学試験合格後の奨学金受給を約束（予約型）するとともに、一定の条件の下に在学期間中も支援を継続することにより、愛校心に溢れた優れた人材を育成することを目的としたものです。

(1) 申請資格

次の条件の全てを満たす者

- ① 日本の高等学校若しくは中等教育学校を平成28年度に卒業見込みの者及び平成27年度中に卒業した者
- ② 推薦入試を受験し、平成29年4月入学予定者のうち、本学に強く入学を希望する者
- ③ 本学入学後に奨学金の受給を希望する者

(2) 奨学金額

年額30万円（返還の必要はありません。）

(3) 給付期間

4年間（医学部医学科は6年間の継続支給）

※各学年の終期に学業成績、修学状況等による継続判定があります。

(4) 採用予定者数

6名程度

(5) 申請方法等

志願票のかささぎ奨学金希望欄の「希望する」に○印を付して申請してください。

(6) 採用候補者の選考・決定

申請資格を満たしている申請者を対象に、入試成績により選考し決定します。

選考は、2月下旬頃を予定しています。なお、佐賀大学ホームページに本選考が終了し、採用候補者のみに通知した旨掲載します。

奨学生の内定を受けた方は、本学入学後に奨学生採用手続きをとることにより正式に採用が決定します。

(7) 奨学金授与式

奨学生採用者に別途お知らせします。

(8) その他

奨学生採用者には、本学行事等に積極的に参加していただき、学生の手本となる愛校心に溢れた優れた人材になることを期待します。

[お問い合わせ先]

佐賀大学学務部学生生活課

(電話) 0952-28-8172 (FAX) 0952-28-8948

推 薦 書

佐賀大学教育学部長 殿

平成 年 月 日

学校名

学校長名

印

下記の者は、本校在学中の成績が優秀で人物に優れており、教育学部が定める入学者受入れの方針の「求める学生像」に合致する人物ですので、出願要件にしたがって責任をもって推薦いたします。

記

志望学部、課程名	教育学部 学校教育課程
志望コース、専攻名	
ふりがな 志願者氏名	

【推薦の理由】（裏面の記入上の注意点をよく読んで記述してください）

【入学者受入れ方針の理解】

(チェック欄：□) 志望コースの「入学者受入れの方針」を志願者に読ませて理解させました

成績順位	学年			備考	
	第1学年	人中	位		
	第2学年	人中	位		
	第3学年	人中	位		

記載責任者（職）氏名

印

推薦書記入上の注意

【推薦の理由】

教育学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の「求める学生像」を踏まえ、志願者の特にアピールしたい点を推薦理由として記入してください。

なお、志願者の人物、課外活動、生活態度等については、調査書における「指導上参考となる諸事項」「特別活動の記録」「備考」などの項目欄に具体的に記述するようにしてください。

【入学者受入れの方針の理解】

各学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を本募集要項に掲載しています。志願者には、「志望コースが求める学生像」と「志望コースで学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み」を読ませ、その内容を理解させてください。志願者が理解したと判断できたら、□にチェックを入れてください。

【成績順位】

3か年にわたる学年ごとの同一課程（同一科）内の成績順位（何人中何位）を記入してください。学年全体の順位で記入できない、第3学年の順位が調査書と異なる場合等は、備考欄に理由を記入してください。

【推薦書の作成について】

Word等で記入する場合、本学ホームページ「入試案内、推薦入試」に推薦書様式を掲載していますのでご利用ください。ただし、様式の改変は認めません。

芸術地域デザイン学部
志願者用

推薦書

平成 年 月 日

佐賀大学芸術地域デザイン学部長 殿

学校名

学校長名

印

下記の者は、本校在学中の成績が優秀で人物に優れており、芸術地域デザイン学部が定める入学者受入れの方針の「求める学生像」に合致する人物ですので、出願要件にしたがって責任をもって推薦いたします。

記

志望学部、学科名	芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科
志望コース、分野名	芸術表現コース 分野
ふりがな 志願者氏名	

【推薦の理由】（裏面の記入上の注意点をよく読んで記述してください）

【入学者受入れ方針の理解】

（チェック欄：□）志望コースの「入学者受入れの方針」を志願者に読ませて理解させました

成績順位	学年			備考
	第1学年	人中	位	
	第2学年	人中	位	
	第3学年	人中	位	

記載責任者（職）氏名

印

推薦書記入上の注意

【推薦の理由】

芸術地域デザイン学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の「求める学生像」を踏まえ、志願者特にアピールしたい点を推薦理由として記入してください。

なお、志願者の人物、課外活動、生活態度等については、調査書における「指導上参考となる諸事項」「特別活動の記録」「備考」などの項目欄に具体的に記述するようにしてください。

【入学者受入れの方針の理解】

各学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を本募集要項に掲載しています。志願者には、「志望コースが求める学生像」と「志望コースで学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み」を読ませ、その内容を理解させてください。志願者が理解したと判断できたら、□にチェックを入れてください。

【成績順位】

3か年にわたる学年ごとの同一課程（同一科）内の成績順位（何人中何位）を記入してください。学年全体の順位で記入できない、第3学年の順位が調査書と異なる場合等は、備考欄に理由を記入してください。

【推薦書の作成について】

Word等で記入する場合、本学ホームページ「入試案内、推薦入試」に推薦書様式を掲載していますのでご利用ください。ただし、様式の改変は認めません。

推 薦 書

平成 年 月 日

佐賀大学経済学部長 殿

学校名

学校長名

印

下記の者は、本校在学中の成績が優秀で人物に優れており、貴学部が定める入学者受入れの方針の「求める学生像」に合致する人物ですので、出願要件にしたがって責任をもって推薦いたします。

記

志望学科名	
ふりがな 志願者氏名	

【推薦の理由】（裏面の記入上の注意点をよく読んで記述してください）

【入学者受入れ方針の理解】

(チェック欄：□) 志望学科の「入学者受入れの方針」を志願者に読ませて理解させました

成績順位	学年			備考	
	第1学年	人中	位		
	第2学年	人中	位		
	第3学年	人中	位		

専門教育に関する科目的合計単位数

単位（商業系の科・情報系の科・総合学科のみ）

記載責任者（職）氏名

印

【推薦要件】（普通科又はこれに準ずると本学部が認める科のみ）

次のいずれかで推薦するか、（ ）内に○をつけてください。

- （ ）① 成績優秀の者（外国語については評定平均4.3以上とします。）
- （ ）② 社会事象についての分析や、社会的活動等において優れた実績があり、それを裏付ける資料がある者（ただし、この実績については証明する資料を添付してください。）
- （ ）③ 個性的で積極性に富み、高等学校校長が大学生活においてその能力を充分に発揮できると評価し、推薦に値すると思われる者

【資格取得状況】（商業系の科・情報系の科・総合学科のみ）

資格 取得 状況	検定と資格（級を記入してください。級のないものは合格としてください。）														
	簿記				情報				英語				商業経済		
	検定	簿	記	情	報	英	語	商	業	日	商	全	商	業	経
	検定・資格	日商	全経	全商	プログラミング	ビジネス全商情報	ITパスポート	実用英語技能検定	全商	日商販売士	全商	商業経済			
級・合格															

推薦書記入上の注意

【推薦の理由】

経済学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の「求める学生像」を踏まえ、志願者の特にアピールしたい点を推薦理由として記入してください。なお、志願者の人物、課外活動、生活態度等については、調査書における「指導上参考となる諸事項」「特別活動の記録」「備考」などの項目欄に具体的に記述するようにしてください。

【入学者受入れの方針の理解】

各学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を本募集要項に掲載しています。志願者には、「志望学科が求める学生像」と「志望学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み」を読ませ、その内容を理解させてください。志願者が理解したと判断できたら、□にチェックを入れてください。

【成績順位】

商業高等学校の場合は、各学年ごとの学年全体での成績順位（何人中何位）を記入してください。カリキュラム上学年全体での成績順位を記入するのが不可能な場合は、各科での成績順位を記入してください（コースごと等のみの順位による推薦はできません）。商業高等学校以外の高等学校では、3か年にわたる学年ごとの同一課程（同一科）内での成績順位（何人中何位）を記入してください。なお、学年全体の順位で記入できない、第3学年の順位が調査書と異なる場合等は、備考欄に理由を記入してください。

【専門教育に関する科目の合計単位数】（商業系の科・情報系の科・総合学科のみ）

平成29年3月までに取得予定の専門教育に関する科目の合計単位数を記入してください。

【推薦要件】（普通科又はこれに準ずると本学部が認める科のみ）

いずれかの推薦要件で推薦するか推薦要件欄の（ ）内に○をつけてください。

【資格取得状況】（商業系の科・情報系の科・総合学科のみ）

在学中に取得した検定の級または合格状況を記入してください。

【推薦書の作成について】

Word等で記入する場合、本学ホームページ「入試案内、推薦入試」に推薦書様式を掲載していますのでご利用ください。ただし、様式の改変は認めません。

推 薦 書

平成 年 月 日

佐賀大学医学部長 殿

学校名

学校長名

印

下記の者は、本校在学中の成績が優秀で人物に優れており、貴学部が定める入学者受入れの方針の「求める学生像」に合致する人物ですので、出願要件にしたがって責任をもって推薦いたします。

記

志望学科名	
ふりがな 志願者氏名	

【推薦の理由】(300字程度で記入してください)

医学科へ推薦する場合は、いずれかの推薦枠を選択し、☑を記入してください。

 一般枠 佐賀県枠 長崎県枠

【人物】(300字程度で記入してください)

【特別活動・各種役員等】

【生活状況・その他】

【入学者受入れ方針の理解】

志望学科の「入学者受入れの方針」を志願者に読ませて理解させました (理解させた場合、
チェックしてください)

成績順位	学年		備考	
	第1学年	人中	位	
	第2学年	人中	位	
	第3学年	人中	位	

専門教育に関する科目の合計単位数 単位 (専門系の科及び総合学科のみ)

記載責任者(職) 氏名

印

※裏面の注意事項をよく読んで記述してください。

推薦書記入上の注意

本学は、医学科においては、「医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師の育成」、また、看護学科においては、「高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者の育成」を教育目的としております。

については、本学のこのような教育目的をご理解の上、将来有為な医師・看護職者となるにふさわしい優れた適性と能力を有する生徒を推薦していただきたいと思います。推薦書の記入にあたっては、単に「まじめである」、「よく活動する」というような概評ではなく、具体的な事実を挙げて記入してください。また、この推薦書は、選考の際の重要な資料となることにご留意ください。

【推薦の理由】

本人を推薦される根拠及び医学または看護学を学ぶ能力と適性があると認められる理由等をわかり易く記入してください。

授業中の態度、勉学の自発性・計画性・持続性、理解力並びに得意、不得意科目等につき具体的な事実を挙げて記入してください。

【入学者受入れの方針の理解】

各学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を本募集要項に掲載しています。志願者には、「志望学科が求める学生像」と「志望学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み」を読ませ、その内容を理解させてください。志願者が理解したと判断できたら、□にチェックを入れてください。

【成績順位】

3か年にわたる学年ごとの同一課程（同一科）内の成績順位（何人中何位）を記入してください。学年全体の順位で記入できない、第3学年の順位が調査書と異なる場合等は、備考欄に理由を記入してください。

【専門教育に関する科目の合計単位数】（専門系の科および総合学科のみ）

平成29年3月までに取得予定の専門教育に関する科目の合計単位数を記入してください。

【希望の推薦枠】（医学科希望者のみ記入）

いずれの推薦枠で推薦するのか、□にチェックを入れてください。

【人物】（300字程度で記入してください。）

調査書の「指導上参考となる諸事項」欄と重複しないよう具体的にかつ詳細に記入してください。

【特別活動・各種役員等】

下記の項目について、記入してください。

- (1) 各学年ごとのホームルームにおいて、役員をしたことがあれば、その役員名とそこでの活動状況
- (2) 全校的な役員をしたことがあれば、その学年、役員名とそこでの活動状況
- (3) 所属クラブ名とそこでの活動状況
- (4) 校外での活動があれば、加入団体名とそこでの活動状況
- (5) その他特記すべきことなど

【生活状況・その他】

下記の項目について、記入してください。

- (1) 本人の趣味・特技・生活態度等
- (2) その他、本人についての特記すべき事項

【推薦書様式の作成について】

表（おもて）の様式に準じた様式でかつ、必要な項目が記入されていれば、Word等で記入・作成していただいて構いません。また、本学ホームページ「入試案内、推薦入試」に推薦書様式を掲載していますので、ご利用ください。ただし、所定の様式と同一の規格（A3判）とし、様式の改変は認めません。

* 記載事項と事実が相違していることが判明した場合は、入学を取り消すことがあります。

推 薦 書

理工学部
志願者用

佐賀大学理学部長 殿

平成 年 月 日

学校名

學校長名

印

下記の者は、本校在学中の成績が優秀で人物に優れており、貴学部が定める入学者受入れの方針の「求める学生像」に合致する人物ですので、出願要件にしたがって責任をもって推薦いたします。

記

志 望 学 科 名	
ふ り が な 志 願 者 氏 名	

【推薦の理由】（裏面の記入上の注意点をよく読んで記述してください）

【入学者受入れ方針の理解】

(チェック欄 : □) 志望学科の「入学者受入れの方針」を志願者に読ませて理解させました

成績順位	学 年				備 考	
	第 1	学 年	人 中	位		
	第 2	学 年	人 中	位		
	第 3	学 年	人 中	位		

専門教育に関する科目の合計単位数

単位（専門系の科及び総合学科のみ）

記載責任者（職） 氏名

印

推薦書記入上の注意

【推薦の理由】

理工学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の「求める学生像」を踏まえ、志願者の特にアピールしたい点を推薦理由として記入してください。

なお、志願者の人物、課外活動、生活態度等については、調査書における「指導上参考となる諸事項」「特別活動の記録」「備考」などの項目欄に具体的に記述するようにしてください。

【入学者受入れの方針の理解】

各学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を本募集要項に掲載しています。志願者には、「志望学科が求める学生像」と「志望学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み」を読ませ、その内容を理解させてください。志願者が理解したと判断できたら、□にチェックを入れてください。

【成績順位】

3か年にわたる学年ごとの同一課程（同一科）内の成績順位（何人中何位）を記入してください。学年全体の順位で記入できない、第3学年の順位が調査書と異なる場合等は、備考欄に理由を記入してください。

【専門教育に関する科目の合計単位数】（専門系の科および総合学科のみ）

平成29年3月までに取得予定の専門教育に関する科目の合計単位数を記入してください。

【推薦書の作成について】

Word等で作成する場合、本学ホームページ「入試案内、推薦入試」に推薦書様式を掲載していますのでご利用ください。ただし、様式の改変は認めません。

農学部
志願者用

推 薦 書

平成 年 月 日

佐賀大学農学部長 殿

学校名

学校長名

印

下記の者は、本校在学中の成績が優秀で人物に優れており、貴学部が定める入学者受入れの方針の「求める学生像」に合致する人物ですので、出願要件にしたがって責任をもって推薦いたします。

記

志望学科名	
ふりがな 志願者氏名	

【推薦の理由】（裏面の記入上の注意点をよく読んで記述してください）

【入学者受入れ方針の理解】

（チェック欄：□）志望学科の「入学者受入れの方針」を志願者に読ませて理解させました

成績順位	学年			備考	
	第1学年	人中	位		
	第2学年	人中	位		
	第3学年	人中	位		

専門教育に関する科目的合計単位数

単位（専門系の科及び総合学科のみ）

記載責任者（職）氏名

印

該当するものにチェックをしてください（募集要項14ページを参照）

- 高等学校の専門系の科及び総合学科の対象者
- 高等学校の全科（専門系の科を除きます）の対象者

推薦書記入上の注意

【推薦の理由】

農学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の「求める学生像」を踏まえ、志願者の特にアピールしたい点を推薦理由として記入してください。

なお、志願者の人物、課外活動、生活態度等については、調査書における「指導上参考となる諸事項」「特別活動の記録」「備考」などの項目欄に具体的に記述するようにしてください。

【入学者受入れの方針の理解】

各学部が定める入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を本募集要項に掲載しています。志願者には、「志望学科が求める学生像」と「志望学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み」を読ませ、その内容を理解させてください。志願者が理解したと判断できたら、□にチェックを入れてください。

【成績順位】

3か年にわたる学年ごとの同一課程（同一科）内の成績順位（何人中何位）を記入してください。学年全体の順位で記入できない、第3学年の順位が調査書と異なる場合等は、備考欄に理由を記入してください。

【専門教育に関する科目の合計単位数】（専門系の科および総合学科のみ）

平成29年3月までに取得予定の専門教育に関する科目の合計単位数を記入してください。

【推薦書の作成について】

Word等で作成する場合、本学ホームページ「入試案内、推薦入試」に推薦書様式を掲載していますのでご利用ください。ただし、様式の改変は認めません。

推薦入試Ⅱ 佐賀県枠志願者用

佐賀県梓志願理由書

○佐賀県枠を志願した理由について、400字以内で記載してください。

氏名		受験番号	※
----	--	------	---

注意事項

(20 × 20)

- ① 楷書の自筆で記入してください（Word 等は不可）。

② 黒ボールペンを使用してください。

③ ※印の欄は記入しないでください。

必ず裏面の「確約書」を記入してください。

受験番号	*
------	---

確 約 書

私は、平成29年度推薦入試Ⅱ（佐賀県枠）において最終合格した場合は、確実に佐賀大学医学部医学科に入学いたします。

また、大学卒業後は、佐賀県内の基幹型臨床研修病院において、初期臨床研修（2年）を行うことを確約いたします。

平成 年 月 日

志願者氏名（自署） _____

佐賀大学長 殿

推薦入試Ⅱ 長崎県梓志願者用

長崎県梓志願理由書

○長崎県枠を志願した理由について、400字以内で記載してください。

氏名		受験番号	※
----	--	------	---

注意事項

(20 × 20)

- 注意事項

 - ① 楷書の自筆で記入してください（Word 等は不可）。
 - ② 黒ボールペンを使用してください。
 - ③ ※印の欄は記入しないでください。

必ず裏面の「確約書」を記入してください。

受験番号	*
------	---

確 約 書

私は、平成29年度推薦入試Ⅱ（長崎県枠）において最終合格した場合は、確実に佐賀大学医学部医学科に入学いたします。

また、入学後は「長崎県医学修学資金」の貸与を受け、大学卒業後は、長崎県が指定する長崎県内の医療機関等で診療に従事することを確約いたします。

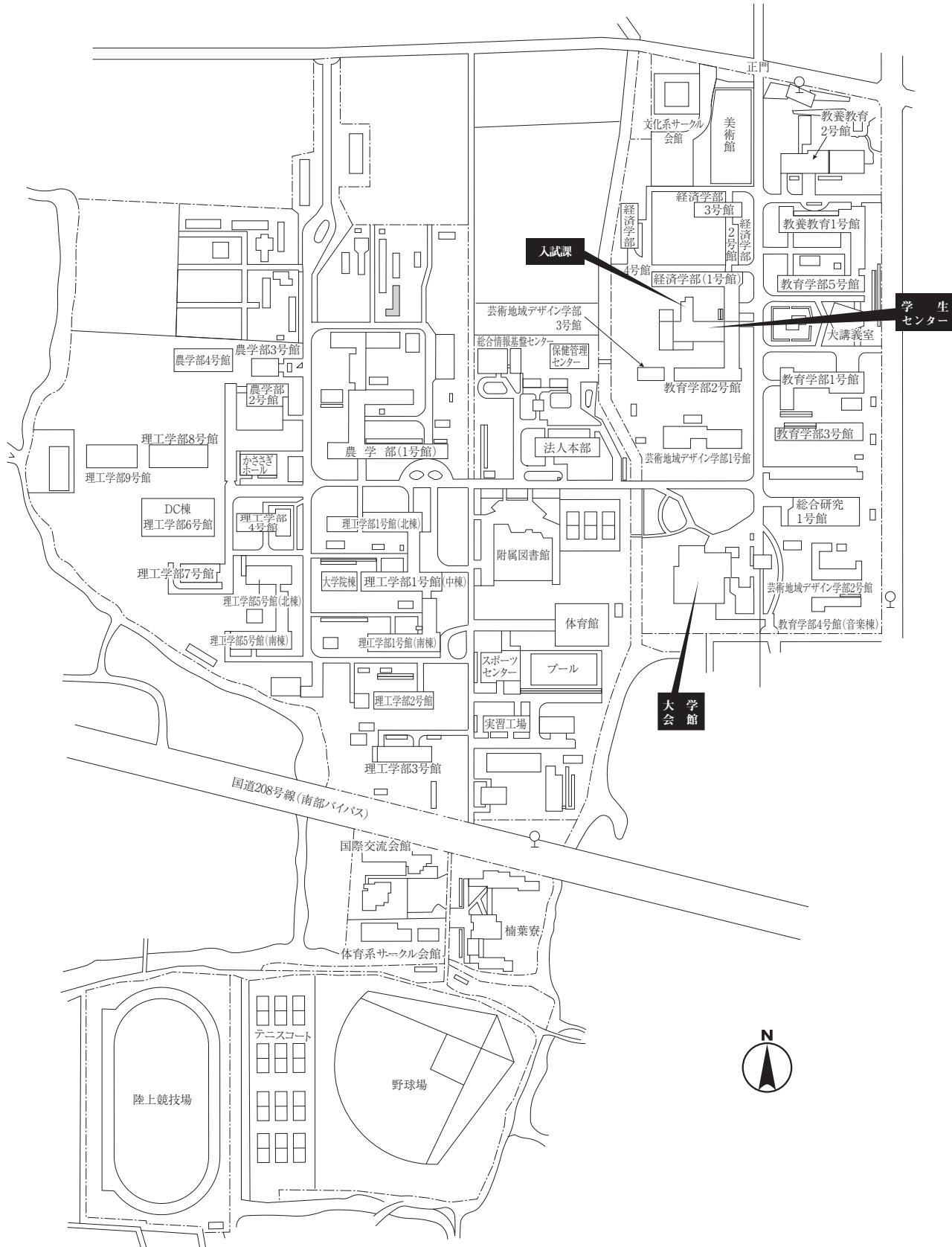
平成 年 月 日

志願者氏名（自署）

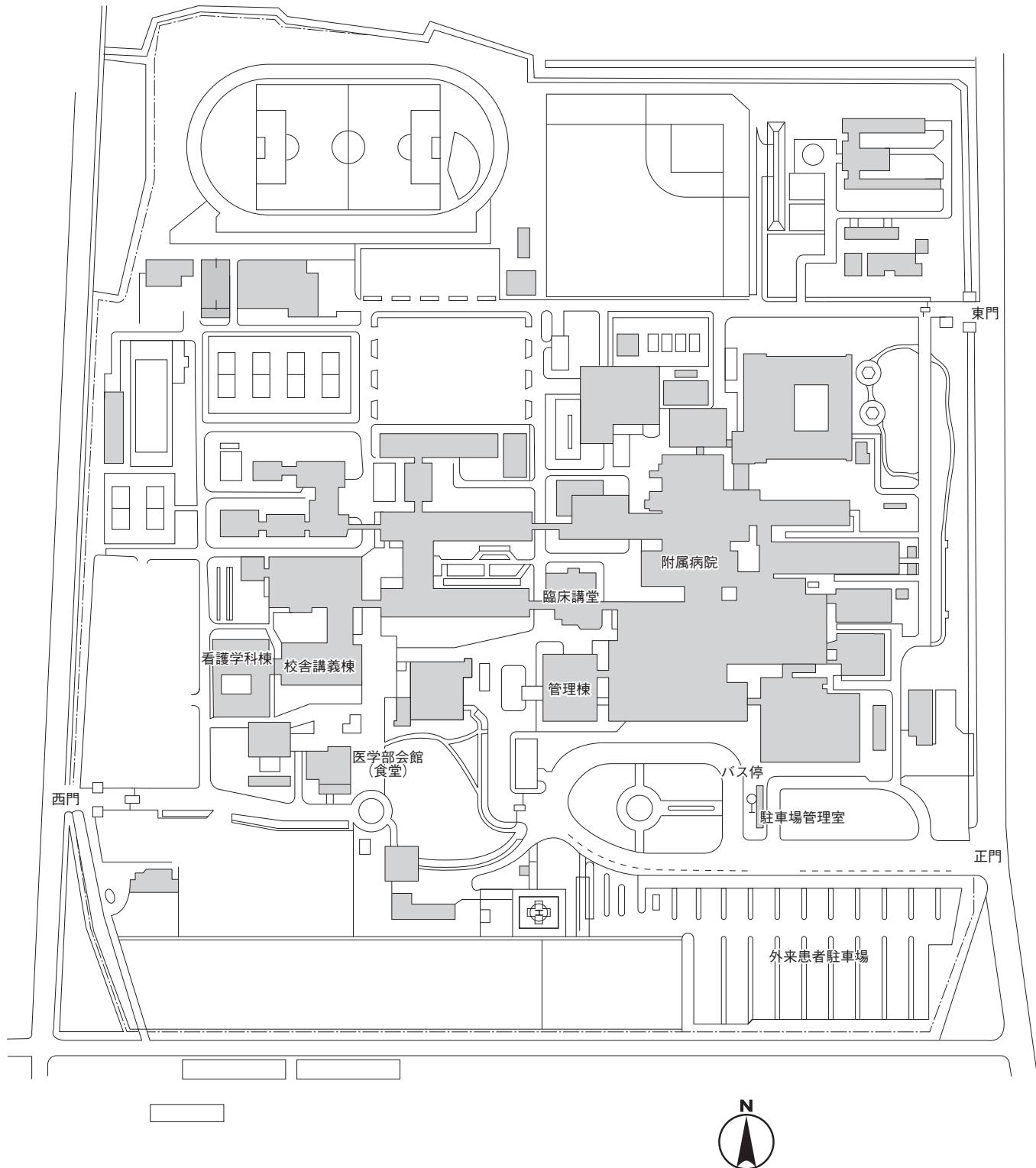
佐賀大学長 殿

V 佐賀大学配置図及び佐賀大学への交通案内

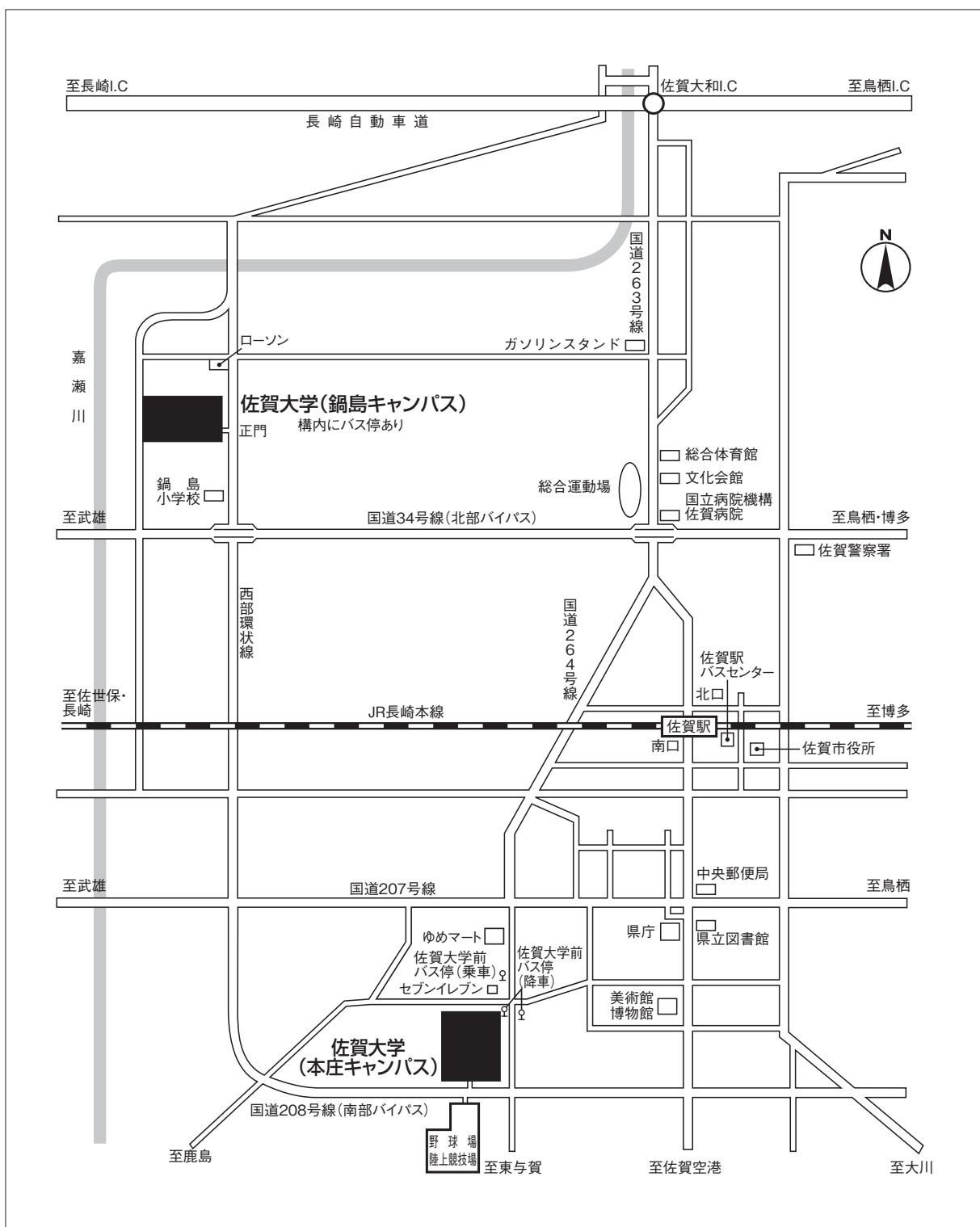
佐賀大学（本庄キャンパス）配置図 [教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、農学部]



佐賀大学（鍋島キャンパス）配置図 [医学部]



佐賀市内略図



佐賀大学（本庄キャンパス）への交通機関案内

- (1) 佐賀駅バスセンター 4番のりばから市営バス佐賀大学・西与賀線・11番, 佐賀大学・東与賀線・12番, 佐賀女子短大・高校線・63番で約15分, 「佐賀大学前」下車
- (2) 佐賀駅からタクシーで約10分

佐賀大学（鍋島キャンパス）への交通機関案内

- (1) 佐賀駅バスセンター 2番のりばから市営バス佐賀大学病院線（神野公園, 鍋島小学校経由・50番）で約25分, 終点「佐賀大学病院」下車
- (2) 佐賀駅からタクシーで約20分

佐賀大学 学務部 入試課

TEL 0952-28-8178

ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp/>
e - m a i l contact@mail.admin.saga-u.ac.jp